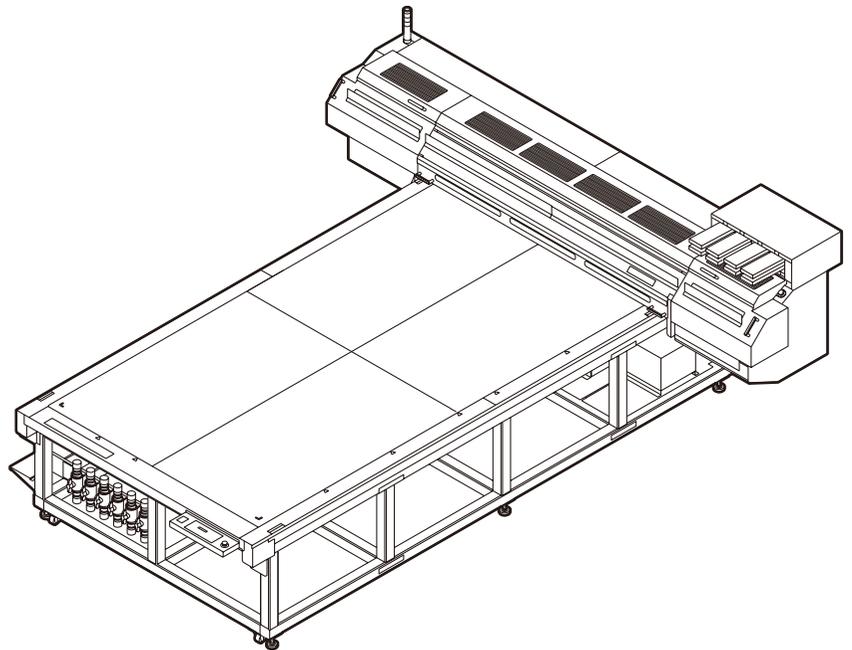


UV INKJET PRINTER

JF-1631
JF-1610

取扱説明書



OPERATION MANUAL

目次

ご注意	v
ご注意	v
おねがい	v
電波障害自主規制	v
テレビ/ラジオの受信障害について	v
はじめに	vi
取扱説明書について	vi
本装置のご紹介	vii
安全にお使いいただくために	viii
マーク表示について	viii
本書の読み方	xvi

第1章 ご使用の前に

本装置を設置する	1-2
設置場所について	1-2
各部の名称とはたらきについて	1-3
装置前面	1-3
装置背面	1-3
操作パネル (JF-1631)	1-4
操作パネル (JF-1610)	1-5
キャリッジ	1-6
キャッピングステーション	1-6
フラッシングBOX	1-6
非常停止スイッチ	1-7
ケーブルを接続する	1-8
USB2.0 インターフェイスクーブルを 接続する	1-8
電源ケーブル接続について	1-8
UV 照射器具と表示灯について	1-9
UV 照射器具	1-9
表示灯の働きについて	1-9
インクカートリッジについて	1-10
お使いになれるインクの種類	1-10
メディアについて	1-12
使用可能メディアサイズ	1-12
メディア取り扱い上の注意	1-12
メニューモードについて	1-13

第2章 基本的な使い方

開閉扉の使いかた	2-2
作業の流れ	2-3
電源を入れる	2-4

メディアをセットする	2-5
JF-1610 でメディアをセットする	2-5
JF-1631 でメディアをセットする	2-6
ロールシートを使うとき	2-8
テスト作図をする	2-9
テスト作図を行う	2-9
ヘッドクリーニングを実行する	2-10
“ノーマル” または “ハード” でクリーニング するとき	2-10
“ワイピング” でクリーニングするとき	2-11
データを作図する	2-12
作図を開始する	2-12
作図を中止する	2-13
Y バーを移動させる	2-14
電源を切る	2-16

第3章 便利な使い方

原点を変更する	3-2
ジョグキーを使って作図原点を変更する	3-2
ファンクションメニューを使って作図原点 を変更する	3-3
メディアの厚みを登録する	3-4
メディアの厚みを手動で登録する	3-4
メディアの厚みを自動測定する	3-5
ヘッドギャップの調整をする	3-6
(UP) (DOWN) キーを使ってヘッドギャップ を調整する	3-6
ヘッドギャップ値の登録	3-7
UV ランプを消灯する	3-8
その他の便利な機能	3-9
データクリア	3-9
本装置の情報を表示する	3-9
各種設定	3-10
作図方式を設定する	3-10
UV ランプの光量を設定する	3-12
優先順位の設定をする	3-14
画面の言語表示を切り替える	3-16
設定リストを出力する	3-17
本装置のマシン情報を表示する	3-18
その他の便利な設定	3-19
設定した内容を初期状態に戻す	3-20
メディアをまっすぐにセットするために	3-21

第4章 日常のお手入れ

日常のお手入れ	4-2
長期間使用しない場合は	4-2
お手入れ上のご注意	4-2
テーブル、外装のお手入れ	4-3
インクカートリッジについて	4-4
新しいインクカートリッジに交換する	4-4
カートリッジ異常が発生したら	4-5
フラッシングBOXのクリーニング	4-6
フラッシングBOXをクリーニングする	4-6
作図中のインク滴のボタ落ちを防ぐ	4-8
ヘッドガードプレートのクリーニング	4-8
廃インクが溜まったら	4-10
廃インクタンクのインクを処分する	4-10
ワイパタンクのインクを処分する	4-11
冷却ファンフィルタを交換する	4-12
自動的にノズル面の清掃をする	4-14
メディアの厚みが変わったら	4-15
インクセットを変更する	4-17
インクセットを変更する	4-18
画質不良が解消されない場合は	4-20
インクの充填を行う	4-20
白インク(ホワイト)の定期メンテナンス	4-22
ヘッドメンテナンス機能	4-24
特色リフレッシュ	4-25
ワイパとキャップのクリーニング	4-26
温水装置の水を交換する	4-29
不凍液混合水の交換方法	4-30
排気ブロワを交換する	4-34
UVランプの消灯時間を設定する	4-36
UVランプフィルタを清掃する	4-37
UVランプを交換する	4-40
UVランプの照射時間を確認する	4-40
UVランプを交換する	4-40
UVランプの照射時間をリセットする	4-43
UV硬化が弱くなったときのチェック方法	4-44
UV光量の変更	4-46
UV照度の確認方法	4-47
UV照度を確認する	4-48

第5章 困ったときは

故障?と思う前に	5-2
電源が入らない	5-2
作図できない	5-2
ディスプレイにメッセージを表示する	5-2
作図不良が発生したときは	5-3
ノズル詰まりを解消したいとき	5-3
動作中に本装置を停止させたいとき	5-3
メッセージを表示するトラブル	5-4
ワーニングメッセージ	5-4
エラーメッセージ	5-5

第6章 付録

仕様	6-2
本体仕様	6-2
インク仕様	6-3
警告ラベルについて	6-4
お問い合わせシート	6-6
機能フローチャート	6-7

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。

また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

一例として、本製品を使用したメディア等の損失や、作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

本装置を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

電波障害自主規制

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。

この場合は、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置の接続に於いて、当社指定のケーブルを使用しない場合は、VCCI ルールの限度を超えることが考えられます。必ず、当社指定のケーブルを使用してください。

テレビ/ラジオの受信障害について

本装置は、使用時に高周波が発生します。このため、本装置が不適切な条件下で設置または使用した場合、ラジオやテレビの受信障害を発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ/テレビに対しては保証しておりません。

本装置がラジオ/テレビ受信の障害原因と思われましたら、本装置の電源を切り、ご確認ください。電源を切り受信障害が解消すれば、本製品が原因と考えられます。

次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせることでお試しください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- この製品から離れた場所にテレビやラジオを設置してください。
- この製品とは別の電源供給路にあるコンセントにテレビやラジオを接続してください。

はじめに

この度は、UV インクジェットプリンタ JF-1631/1610 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

「UV インクジェットプリンタ JF-1631/1610」は、紫外線硬化インク (UV インク) を使用しております。

本書をよくお読みになり、お客様のニーズに合わせた作図にお役立てください。

取扱説明書について

- 本書は、「UV インクジェットプリンタ JF-1631/1610」(以後本装置と称します) の操作やメンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いてお使いください。
- 本書は、本装置をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 本書が焼失／破損などの理由により読めなくなった場合は、新しい取扱説明書を弊社営業所にてお買い求めください。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

© 株式会社ミマキエンジニアリング

All Rights Reserved.Copyright

本装置のご紹介

本装置の持つ特長をご紹介します。本書で説明する操作方法と併せて、作図のご理解にお役立ててください。

紫外線硬化インクを使用

新開発の紫外線硬化インクの使用により、メディアに直接プリントすることができます。

高速インターフェイスを使用

高速インターフェイス「USB2.0」の使用により、コンピュータからのデータ受信を高速に行えます。

印刷後のインク硬化定着が可能

紫外線硬化装置（UV ランプ）を搭載しておりますので、印字後、インクの硬化定着が可能です。

ワイドな印字幅

ワイドな印字可能幅を備えています。

JF-1631 の場合：1602 mm（63 インチ）x3100mm（122 インチ）

JF-1610 の場合：1602 mm（63 インチ）x1016mm（40 インチ）

最大 50mm 厚のメディアに対応

本装置は、最大 50mm（2 インチ）厚のメディアに対応可能です。

バキュームテーブルを装備

メディア固定用の吸引ブロワテーブルを装備しています。

安全にお使いいただくために

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味をご理解し、本装置を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例

内 容	
	「警告」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずよくお読みになり、正しくお使いください。
	「注意」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
	「重要」マークは、本装置をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。操作の参考にしてください。
	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。
	関連した内容の参照ページを示しています。
	△マークは、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。中に具体的な注意事項（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。



警告



- 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で使用する場合は、必ず換気装置を設けてください。

排気口施工時について

本装置の故障を防ぐため、下記の注意を必ずお守りください。

(1) 排気口の形状は、お客様の建物環境によりますが、開口部の面積はダクトの 50%以上を確保してください。

(2) 排気口に閉鎖弁等を設置する場合、本装置使用時は必ず閉鎖弁を開けてください。



- 本装置で使用するインクは、危険物第4類第3石油類に該当します。よって、引火する可能性があるため本装置を使用する場所は、火気厳禁としてください。



- インクステーションやヘッドをクリーニングする際は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入る場合があります。



- 誤ってインク、メンテナンス用洗浄液を飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診断を受けてください。嘔吐物は、飲み込ませないください。その後、毒物管理センターに連絡してください。
- 蒸気を大量に吸い込んで気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移り、暖かくして安静にしてください。また、直ちに医師の診察を受けてください。
- 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。

絶対にしないでください

 警告	
分解・改造はしない  <ul style="list-style-type: none"> 本装置やインクカートリッジの分解・改造は、絶対に行わないでください。感電や故障の原因になります。 	インクカートリッジの取り扱い  <ul style="list-style-type: none"> 一部成分において（光重合開始剤）、水性生物に対する毒性があります。自然水系、生活排水への漏洩流出を防いでください。 インクカートリッジや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。 インクが皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石けんや水で洗い流してください。万一インクが目に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
湿気の多い場所では使用しない  <ul style="list-style-type: none"> 湿気の多い場所での使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。 	接地工事  <ul style="list-style-type: none"> 本装置は、感電事故防止のため接地工事が必要です。 接地工事は、C種接地工事（特別第3種接地工事）を行ってください。
異常事態の発生  <ul style="list-style-type: none"> 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。 お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。 	
電源ケーブルの取り扱い  <ul style="list-style-type: none"> 付属の電源ケーブルを使用してください。 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、ひっぱったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。 	保護具着用  <ul style="list-style-type: none"> 吸引ノズルやキャップのクリーニングにおいて、インク、メンテナンス用洗浄液が飛び散る可能性がある場合は、必ず保護メガネおよび手袋を着用して、クリーニングを行ってください。インク、メンテナンス用洗浄液が目に入る危険性があります。またインク、メンテナンス用洗浄液が手に付着すると手が荒れる原因になります。
	扉、蓋の開閉について  <ul style="list-style-type: none"> 本装置には開閉扉、蓋があります。扉、蓋開閉時には指、腕および胴体部の一部が挟まれる恐れがあります。万一、挟まれると、打ち身や最悪の場合、圧死もありえます。扉、蓋の開閉作業には、必ず人体の一部が挟まれることの無いように行ってください。

⚠ 警 告

電源、電圧について



• 本装置には、高電圧が発生している部分があります。電気工事は、電気工事士の免許を持った人以外が行うことを禁止します。



• メンテナンス時には感電を防ぐために、必ず主電源ブレーカーをオフにし、電源プラグを抜いてください。また装置によっては、コンデンサの電荷放電時間に 1 分間必要な場合があります。主電源ブレーカーをオフにし、電源プラグを抜いた後は、必ず 3 分後に作業するようにしてください。



• 接地工事は、感電事故防止のため必ず行ってください。

• 表示された電源仕様で使用してください。また、電源ケーブルのプラグは、必ずアース処理したソケットに差し込んでください。火災・感電の原因になります。



• 本装置の主電源ブレーカの投入作業も、本装置の操作方法を熟知した人以外には行わないでください。



• UV ランプがまれに破損することがあります。定格寿命もしくは、それ以前の UV ランプ交換をお勧めします。

• ランプの交換、取付け、取外しの場合には、必ず電源をオフにして作業を行ってください。感電の原因になります。



• 点灯中のランプは絶対に直接肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。必ず安全眼鏡を掛けてください。

• 紫外線 (UV) を皮膚に直接あてないでください。皮膚の炎症を起こす原因になります。



• 弊社推奨のランプをご使用ください。使用しない場合は、火事または器具の破損事故につながります。弊社推奨のランプ以外は絶対に使用しないでください。弊社推奨のランプ以外を使用して生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。

• 点灯中や消灯直後は熱いので、UV ランプには手を触れないでください。ヤケドの原因となります。UV ランプの交換時には、十分に冷えてから取り扱ってください。

UV ランプの取り扱い



• ガラス製品のため落としたり、物をぶつけたり、無理な力を加えたり、キズをつけたりしないでください。破損の原因となります。



• 引火する危険性の雰囲気 (ガソリン・可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・粉塵など) で使用しないでください。また紙や布をランプに近づけたり、覆ったりしないでください。火災の原因になります。



• 使用済みの UV ランプは割らずに必ず容器に入れ、一般の蛍光灯と同様に地域条例に従い、廃棄してください。UV ランプをそのまま割るとガラス破片が飛散します。

レーザーセンサー



• 本装置には、レーザーセンサー (クラス 2) が使用されています。絶対にレーザー光を直接のぞき込まないでください。目の痛みや視力障害の原因になります。



⚠ 警 告

不凍液の取り扱い



- 不凍液は、弊社専用の不凍液をご使用ください。温水装置が故障する恐れがあります。
- 不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）は、直接肌に触れないようにしてください。
万一、皮膚や衣服に触れてしまった場合は、石けんを使って、すぐに流水で洗い落とししてください。
万一、不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）が目に入った場合は、大量の流水で洗い、医師の診断を受けてください。
また高温の温水タンク水（不凍液混合水）に触れた場合は、直ちに石けんや水で洗い落とし、氷水で十分冷やしてから、医師の診断を受けてください。
- 不凍液をご使用前に、必ず製品安全性データシート（MSDS）をお読みください。



- 誤って不凍液または温水タンク水（不凍液混合水）を飲み込んだ場合は、直ちに吐かせ、医師の診断を受けてください。
- 不用となった不凍液または使用済みの温水タンク水（不凍液混合水）は以下の方法で処分してください。
 - おがくず、ウェス等に吸着させて、焼却炉で焼却する
 - 免許を持った産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託する
- 静電気・衝撃火花による着火源が生じないように注意してください。
- 不凍液を取り扱う場合は、必ずゴーグルおよび手袋を着用してください。



使用上のご注意

⚠ 注 意

ホコリから守る



- できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。悪環境下では、リフレッシュレベルを2または3に設定してください。
- 夜帰宅する際は、メディアをセットしたままにしないでください。メディアの上にホコリが付着してしまいます。
- メディアはホコリがつかないように保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になってしまいます。
- キャッピングステーションの拭き掃除は、こまめに行ってください。
- ホコリが原因で、作図中に突然インクの雫がヘッドからメディアに落ちる場合があります。この場合は、ヘッドをクリーニングしてください。
(P.2-10)

定期交換部品があります



- 本装置には、別途に定める定期交換部品があります。保守契約をしていただくことをお勧めいたします。

装置を水平に保つ



- 必ず、レベルフットを調整し、本装置を水平に保つようにしてください。

メンテナンス用洗浄液について



- メンテナンス用洗浄液は、冷暗所で保管してください。また子供の手の届かない場所に保管してください。

注意

インクカートリッジについて



- カートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上室温環境下に放置してから利用してください。
- カートリッジは、取付直前に開封してください。開封した状態で長時間放置しておくと、正常に作図できない場合があります。
- カートリッジは、冷暗所で保存してください。
- カートリッジを開封後は、お早めに使ってください。開封後、長時間経過したものは、作図品質が低下します。



- 専用インク以外を使用すると、故障の原因になります。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。
- カートリッジ内のインクを詰め替えないでください。
- インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。

警告ラベルについて



- 本装置には、警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり、剥がれた場合は、販売店、または弊社営業所にて新しい警告ラベルをお買い求めください。

不凍液について



- 不凍液は冷暗所で保存してください。
- 不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。

紫外線について



- UV ランプ周辺から多少の紫外線漏れがあります。紫外線を皮膚や目に浴びると、炎症や皮膚ガンを起こす可能性があります。弱い紫外線で炎症を起こさない場合でも、反復暴露により慢性障害に発展する場合があります。紫外線を皮膚や目に浴びないようにしてください。



- 紫外線の目への障害として、急性障害；異物等、とう痛および涙が流れる等がある。慢性障害；白内障等がある。本装置を使用する場合、手袋、長袖の服、顔面部は遮光面、目は付属の遮光メガネ等で保護してください。

高温について



- UV ランプ、UV 照射装置内部は、非常に高温になります。メンテナンスを行う時は、ランプ消灯後十分温度が下がってから行ってください。
- 装置外装部で高温になっている部分があります。この高温部には、高温注意銘板が貼り付けてあります。高温注意銘板が貼ってある部分およびその付近は、触ると火傷の恐れがあります。触らないでください。

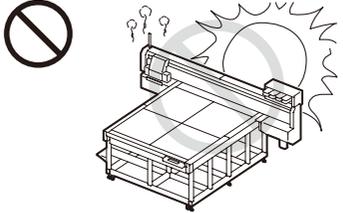
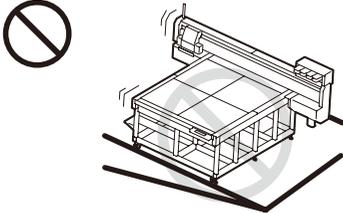
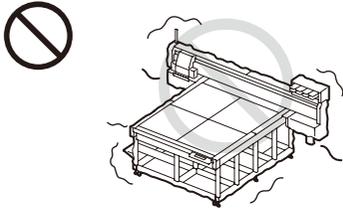
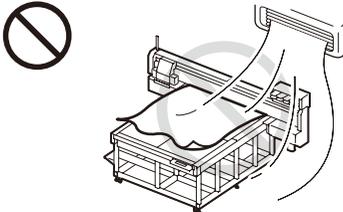
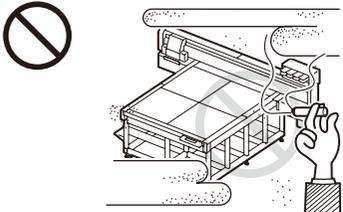


- 万一、高温部に触る時は、断熱性のある手袋等で手の皮膚を保護してください。


注 意

清掃について	発火、発煙について
 <ul style="list-style-type: none"> • 長年の使用により装置導電部や絶縁部にゴミ、ホコリが溜まり漏電する場合があります。定期的に清掃をしてください。 • 清掃は圧縮空気の吹き付けで行わないでください。ゴミ、ホコリが飛散するだけでは無く、導電部に侵入して動作不良を起こします。必ず掃除機を使用して、ゴミ・ホコリを吸い取ってください。 • 水のかかる場所での使用は、漏電の可能性が非常に高くなります。水のかかる場所での使用は避けてください。 • 万一、漏電が発生すると、作業員の感電や火災に発展する場合があります。 • 事故防止のため、定期点検、定期交換部品の交換等は必ず行ってください。 	 <ul style="list-style-type: none"> • UV ランプ等の高温部に可燃物が触れると、発火、発煙の可能性があります。また、UV ランプの下に数秒間、可燃物を放置すると、発火、発煙の可能性があります。  <ul style="list-style-type: none"> • 長年の使用で、安定器やその他使用部品についてゴミやホコリによる漏電、絶縁劣化が原因の発火、発煙の可能性がある。定期的な清掃、絶縁抵抗測定による劣化部品の交換をしてください。 • 長年の使用で、導電部のネジ等が緩むことが原因で、発火、発煙の可能性があります。定期的な増し締めを行ってください。 • 本装置は防爆タイプではありません。危険物雰囲気での使用は爆発等の危険があります。危険物雰囲気での使用を禁止します。 • 異臭・発煙・スパーク跡など装置に異常が見られた場合は直ちに電源をオフにして弊社まで連絡してください。
UV ランプの注意	
 <ul style="list-style-type: none"> • UV ランプ、UV 照射器具下面のガラスは、必ず付属の手袋をはめて取り扱い、素手で触れないでください。UV 硬化が著しく低下する原因になります。汚れがついた場合には、アルコールを湿らせた清潔なガーゼ等で拭いてください。（外側カバーは、アルコールで拭かないでください。塗装がはげます。） • ランプは、ソケットに確実に取り付けてください。落下や過熱の原因になります。 	
 <ul style="list-style-type: none"> • UV ランプの性能、寿命は UV 照射装置、UV 電源装置によって大きく左右されます。弊社推奨の UV 照射器具、UV 電源装置以外は絶対に使用しないでください。弊社推奨の UV 照射装置、UV 電源装置以外を使用して生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。 	

設置上のご注意

 注 意		
直射日光が当たる場所 	水平でない場所 	温度や湿度の変化が 激しい場所  <ul style="list-style-type: none"> • 次の環境下でお使い ください。 • 使用環境： 15 ~ 30 °C 35 ~ 65 % (Rh)
振動が発生する場所 	エアコンなどの 風が直接当たる場所 	火を使う場所 

本書の読み方

本取扱説明書では、操作手順と合わせて操作パネルの「表示パネル」に表示する文字や、使用するキーを説明しています。
使用中に確認しながら、操作を進めてください。

事前にご存知の
いただきたい内容です

機能の概要を
説明しています

テスト作図をする

テスト作図を行い、ノズル詰まりなどの作図不良（カスレや抜け）がないか確認します。

テスト作図を行う



次のようなメッセージが表示されている場合は、作図ができません。しばらくして、メッセージが消えてから作図してください。
“オンスイ ジュンビチュウ”：温水装置の温水が一定温度に達していない
“UV ジュンビチュウ”：UV 照射器具の準備が完了していない

テスト作図の前に確認してください

- ・メディアをセットしているか(☞ P.2-5)
- ・原点位置をセットしているか(☞ P.3-7)
- ・ヘッドギャップ値を登録しているか(☞ P.3-7)

操作手順の
番号です

1

ローカルモードで、**TEST** キーを押す

テスト サクス
ノズルチェック <ent>

2

2

▲ ▼ を押し “ノズルチェック” を選ぶ

・“コウカチェック” を選ぶと、UV インクが固まっていないか (硬化) を確認できます。(☞ P.4-45)

基本的な
使い方

3

ENTER キーを押す

** テスト サクス **

・テスト作図を開始します。

4

テスト作図が終了する

・ローカルモードになります。
・Yバーをテーブルから退避させたいときは、P.2-14 の操作をしてください。

5

作図結果を確認する

・正常な場合は、データを作図してください。(☞ P.2-12)
・異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(☞ P.2-10)

表示パネルを表示します

正常なパターン	異常なパターン		
	ドカ抜け	ノズル抜け	飛行曲がり
	 たくさん線の抜けている	 線が抜けたように欠けている	 線の間隔が詰まったり二重になっている

2-9

文章中のボタンを
○ 囲みで表しています

ページ番号です
(2章の-9ページ)

第1章 ご使用前に



この章では ...

本装置の各部の名称や設置方法など、ご使用前に知っておいていただきたいことについて説明します。

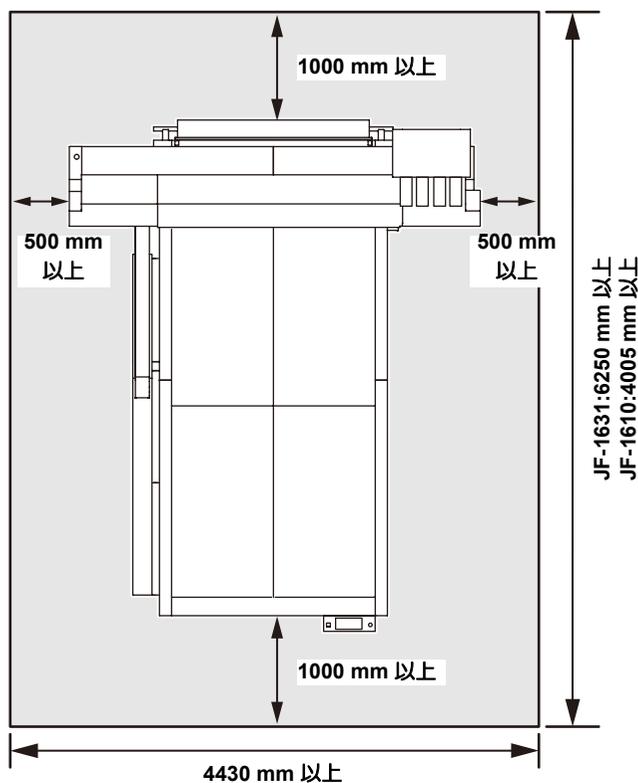
本装置を設置する	1-2	ケーブルを接続する	1-8
設置場所について	1-2	USB2.0 インターフェイスケーブル	
各部の名称とはたらきについて.....	1-3	を接続する	1-8
装置前面	1-3	電源ケーブル接続について	1-8
装置背面	1-3	UV 照射器具と表示灯について	1-9
操作パネル (JF-1631)	1-4	UV 照射器具	1-9
操作パネル (JF-1610)	1-5	表示灯の働きについて	1-9
キャリッジ	1-6	インクカートリッジについて.....	1-10
キャッピングステーション	1-6	お使いになれるインクの種類	1-10
フラッシングBOX	1-6	メディアについて	1-12
非常停止スイッチ	1-7	使用可能メディアサイズ	1-12
		メディア取り扱い上の注意	1-12
		メニューモードについて	1-13

本装置を設置する

設置場所について

本装置を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。
本体の大きさと作図のために必要なスペースを考慮して設置します。

機種	幅	奥行き	高さ	全体重量
JF-1631	3430 mm	4250 mm	(最小) 1385 ~ (最大) 1465mm	約 1150 kg
JF-1610	3430 mm	2005 mm	(最小) 1385 ~ (最大) 1465mm	約 1050 kg



• 本装置の設置および移動は、お客様が行うことはできません。弊社サービスおよび電気工事業者にお任せください。



• 接地工事には、C種接地工事（特別第3種接地工事）を行ってください。



• 本装置の電気工事は、感電事故防止のため、電気工事士の免許を持った人以外が行うことを禁止します。

各部の名称とはたらきについて

装置前面

表示灯

本装置の状態を表示します。
(☞ P.1-9)

キャリッジ (☞ P.1-6)

テーブル

メディアをセットします。(☞ P.2-5)
テーブル上に吸着穴があり、
バキュームをオンにすると、
メディアを吸着します。

吸引バルブ

メディアをセットするときに
切り替えます。(☞ P.2-5)

インクステーション

インクカートリッジを差し
込みます。(☞ P.1-10)

操作パネル

本装置に必要な設定を行う操作キー
や、操作項目を表示するディスプレ
イがあります。(☞ P.1-4)

電源ボタン

主電源スイッチとは別に本装置の電
源の ON/OFF ができます。
(☞ P.2-4、P.2-16)

装置背面

廃インクタンク

クリーニングなどで使用した廃
インクを溜めます。(☞ P.4-10)

Yバー

作図をするとき、テーブ
ルの上を移動します。

ロールハンガー

ロールシートをセットでき
ます。(☞ P.2-8)

主電源スイッチ

本装置の電源をオン/オフ
します。

USB2.0 コネクタ

USB2.0 に準拠したインター
フェイスです。(☞ P.1-8)

1

1つ使用の前に

操作パネル（JF-1631）

操作パネルは、作図方法の設定、各種操作に使用します。

VACUUM/BLOW キー (P.2-5)
バキュームとブロウを切り替えます。

VACUUM ランプ (P.2-5)
メディアをセットしたとき点灯させます。

BLOW ランプ (P.2-12)
メディアをテーブルから取り外すときに点灯させます。

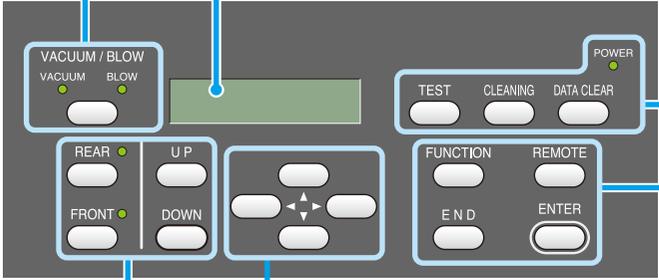
POWER ランプ
電源が入っているときに点灯します。

TEST キー
テスト作図をするときに押します。
(P.2-9)

CLEANING キー
ヘッドのクリーニングをするときに押します。
(P.2-10)

DATA CLEAR キー
受信したデータを消去するときに押します。
(P.3-9)

ディスプレイ
本装置の状態や設定項目、エラーなどを表示します。



REAR キー
テーブル後側のバキュームの ON/OFF を切り替えます。

FRONT キー
テーブル手前側のバキュームの ON/OFF を切り替えます。

UP キー
Yバーを上げるときに押します。
(P.3-6)

DOWN キー
Yバーを下げるときに押します。
(P.3-6)

FUNCTION キー
各種機能を使うときに押します。

REMOTE キー
リモートモードとローカルモードを切り替えます。
(P.1-13)

END キー
設定を終わるときに押します。

ENTER キー
設定を確定するときに押します。

JOG キー
Yバーの移動や、各種設定で使います。

ジョグキーのはたらき

ジョグキーは、使用するタイミングにより機能が異なります。

	作図原点、範囲設定時	機能選択時	設定の選択時
	キャリッジを左へ移動		
	キャリッジを右へ移動		
	Yバーを奥側へ移動	1つ前の機能に戻る	1つ前の機能を選択する
	Yバーを手前に移動	次の機能に移る	次の値を選択する

操作パネル (JF-1610)

1

1 使用の前に

VACUUM/BLOW キー (P.2-5)

バキュームとブロウを切り替えます。

VACUUM ランプ (P.2-5)

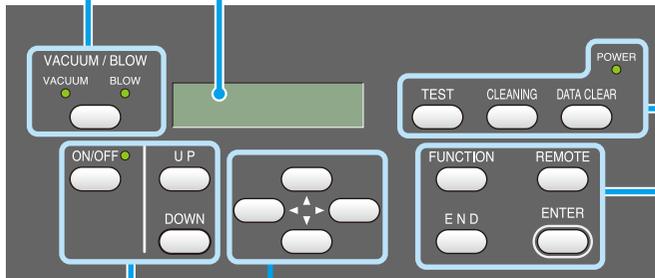
メディアをセットしたとき点灯させます。

BLOW ランプ (P.2-12)

メディアをテーブルから取り外すときに点灯させます。

ディスプレイ

本装置の状態や設定項目、エラーなどを表示します。



POWER ランプ

電源が入っているときに点灯します。

TEST キー

テスト作図をするときに押します。
(P.2-9)

CLEANING キー

ヘッドのクリーニングをするときに押します。
(P.2-10)

DATA CLEAR キー

受信したデータを消去するときに押します。
(P.3-9)

JOG キー

Yバーの移動や、各種設定で使います。

ON/OFF キー

バキュームの ON/OFF を切り替えます。

UP キー

Yバーを上げるときに押します。
(P.3-6)

DOWN キー

Yバーを下げるときに押します。
(P.3-6)

FUNCTION キー

各種機能を使うときに押します。

REMOTE キー

リモートモードとローカルモードを切り替えます。
(P.1-13)

END キー

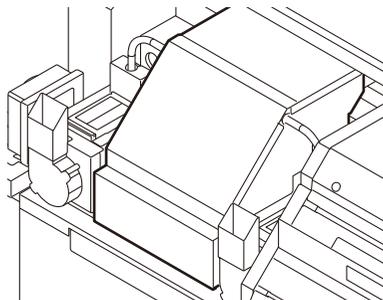
設定が終わるときに押します。

ENTER キー

設定を確定するときに押します。

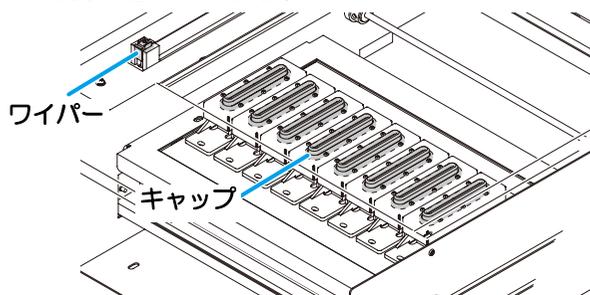
キャリッジ

キャリッジには、作図用のプリントヘッド、UV 照射器具、プリントヘッドカバー内にライトポイントを搭載しています。キャリッジの待機位置は、装置の状態によって異なります。



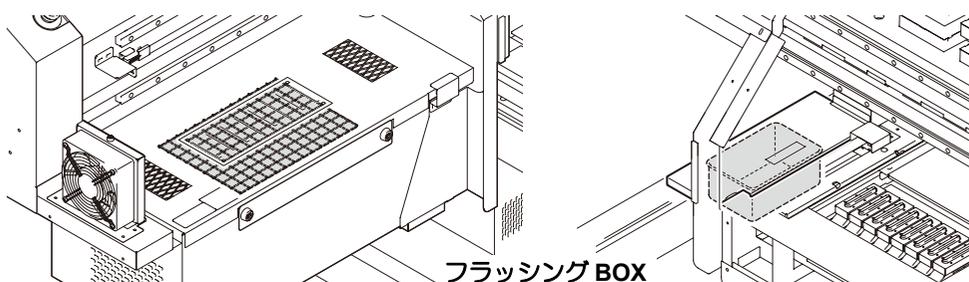
キャッピングステーション

本装置正面右側にあるキャッピングステーションは、プリントヘッドのメンテナンスを行うキャップ、ワイパーで構成されています。



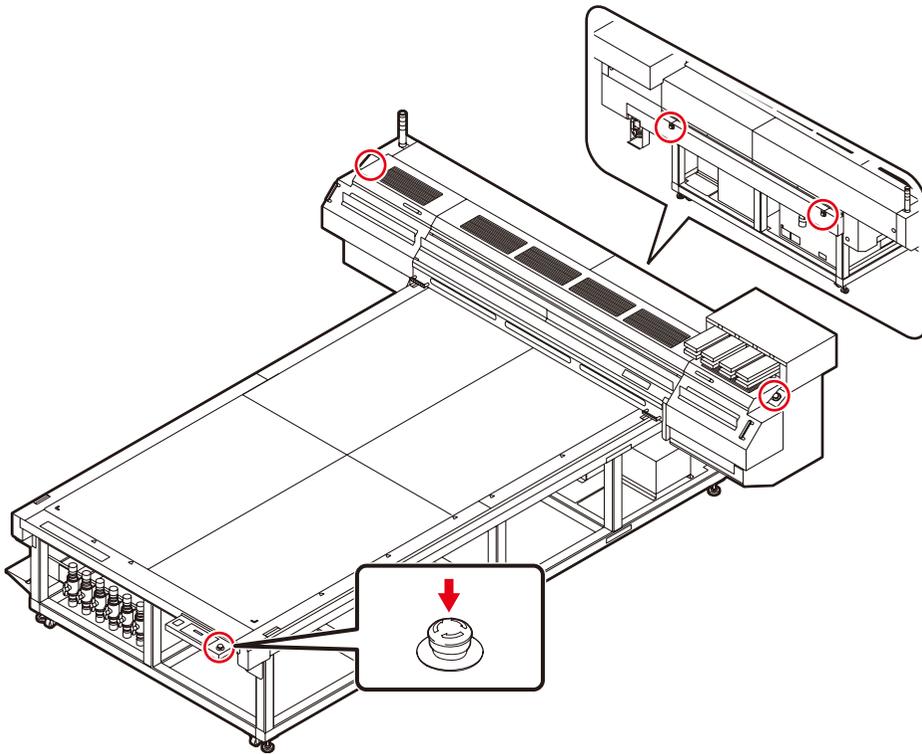
フラッシング BOX

フラッシングトレーは、本体の左右にあります。プリントヘッドがフラッシングした際に、フラッシング BOX の内部の吸収材に廃インクが吸収されます。吸収材はこまめに交換してください。(☞ P.4-6)



非常停止スイッチ

安全上の理由で、本装置を緊急停止したいときに押します。
非常停止スイッチは、装置前面に1箇所、背面とYバーにそれぞれ2箇所ずつあります。



1

1 使用の前に

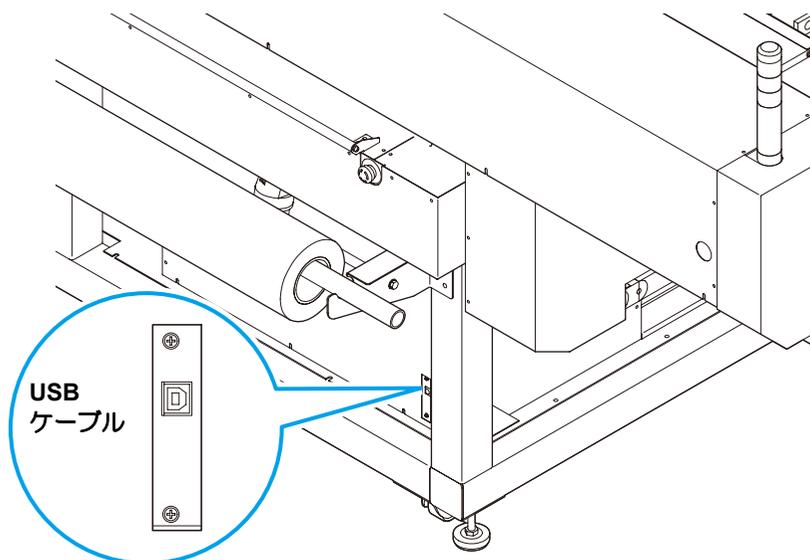
ケーブルを接続する

USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する

コンピュータと本装置を USB2.0 インターフェイスケーブルで接続します。



- ご使用の RIP が USB2.0 インターフェイスに対応している必要があります。
- USB2.0 インターフェイスがコンピュータに付いていない場合は、お近くの RIP メーカーまたは弊社営業所までお問い合わせください。



電源ケーブル接続について



- 本装置は、電源取得の際に、配電盤の工事が必要です。
- 本装置の電源ケーブル接続はお客様が行うことは出来ません。電源ケーブルを接続する場合は、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
- 設置場所の移転等により、電源ケーブルの接続を変更する場合も同様に、必ず弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。
- サービスコールをせずに、お客様による電源ケーブル接続を行った際に生じた不具合については、弊社はいっさい責任を負いかねますので、ご了承ください。

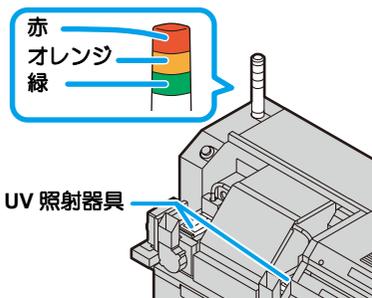
UV 照射器具と表示灯について

UV 照射器具



- 点灯中の UV ランプから出る光を直接肉眼で見ないでください。
- 点灯中や消灯直後は UV 照射器具に触らないでください。熱くなっているため大変危険です。

UV ランプは 30 分以上作図がないと自動的に消灯します。長時間作図しない場合 (30 分以上) は、UV ランプを消灯してください。(P.3-8「UV ランプを消灯する」)



表示灯の働きについて

本体左上にある表示灯の動作について説明します。表示灯には 3 つのモードがあります。本装置の表示灯にて、各モードの状態を表します。

モード	本装置の状態	概要
レディモード		
点灯 (グリーン)	リモートモード	
点滅 (グリーン)	リモートモード (作図中)	
消灯	ローカルモード	
アフタークーリングモード		
点灯 (オレンジ)	[作図不可能状態] UV ランプを冷却中 (5 分間)	以下の場合に、UV ランプを消灯します。 • 消灯するオペレーションをした時 • 作図後 30 分以上が経過した時 • 本装置にエラーが起きた時
点滅 (オレンジ)	[作図不可能状態] UV ランプを点灯準備中	UV ランプ消灯後、ランプ部を冷却しています。UV ランプは再点灯できず、本装置も作図動作は行えません。一旦、消灯するまでお待ちください。
消灯	UV ランプ点灯完了または、消灯完了	
エラーモード		
点灯 (レッド)	[作図不可能状態] エラーが発生 (UV ランプは消灯する)	(1) UV 電源の異常 (2) UV ランプのオーバーヒート UV ランプを消灯します。 本装置の作図動作はストップします。 (3) UV 照射器具が正常に動作しない場合 (4) 本装置にエラーが発生したとき。
消灯	正常	

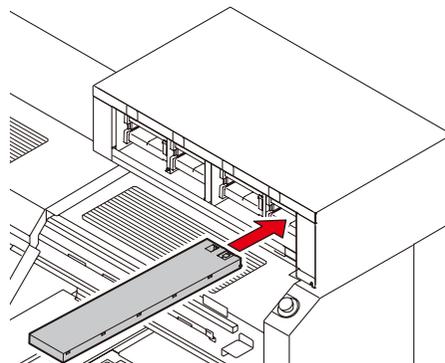
インクカートリッジについて

インクカートリッジをインクステーションに差し込んでお使いください。

お使いになれるインクの種類

インクの種類	色	品番
UV インク	マゼンタ	SPC-0371M
	シアン	SPC-0371C
	イエロー	SPC-0404HY
	ブラック	SPC-0371K-2
	ライトシアン	SPC-0371Lc
	ライトマゼンタ	SPC-0371Lm
	ホワイト	SPC-0371W-5
	クリア	SPC-0371CL
洗浄カートリッジ ^{*1}		SPC-0371FS

*1: インクセット変更時やヘッド洗浄時に使用します。



ディスプレイには、次のように色を表示します。

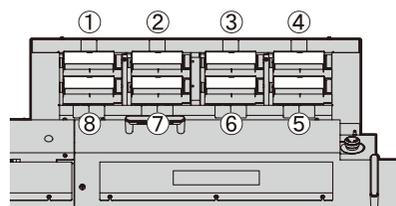
ディスプレイ表示	色	ディスプレイ表示	色	ディスプレイ表示	色
M	マゼンタ	c	ライトシアン	S	特色 1
C	シアン	m	ライトマゼンタ	s	特色 2
Y	イエロー	W	ホワイト		
K	ブラック	CL	クリア		

インクカートリッジセット時のご注意

インクカートリッジをセットするときは、次のことにご注意ください。



- インクスロット番号を確認し、正しい色のインクカートリッジを差し込んでください。色とインクスロット番号の関係は、インクセットにより異なります。
(※ P.4-17 「インクセットを変更する」)
- インクカートリッジは、スロットの奥まで確実に差し込んでください。また、乱暴に抜き差ししないでください。
- IC チップがある面を上に向けて差し込んでください。



インクカートリッジ取り扱い上のご注意



- インクカートリッジは、弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。
- インクには直接ふれないようにしてください。誤ってインクを付けてしまった場合は、石けんや水ですぐに洗い落としてください。万一、インクが目に入った場合は、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- インクカートリッジは冷暗所で保存してください。
- インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
- インクカートリッジは開封してから6カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは作図品質が低下します。
- インクカートリッジは、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 未使用のインクカートリッジは、産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託してください。
- 一部成分において（光重合開始剤）、水性生物に対する毒性があります。自然水系、生活排水への漏洩流出を防いでください。
- インクカートリッジに記載している有効期限を過ぎた場合は、そのインクカートリッジを使用しないでください。
- インクカートリッジをご使用の前に、必ず安全データシート（MSDS）をお読みください。



- インクカートリッジを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、カートリッジからインクがもれることがあります。
- インクカートリッジは分解しないでください。
- インクカートリッジのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。また、インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について、弊社はいっさい責任を負いかねます。

白インク（ホワイト）の取り扱いについて

白インク（ホワイト）は他のインクに比べて長期使用しない場合カートリッジ内部で、沈殿してしまう場合があります。白インクの状態を良好に保つため、必ず定期メンテナンス作業を行ってください。（※ P.4-22「白インク（ホワイト）の定期メンテナンス」）



- インクカートリッジは、弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。
- 一週間に一度、白インクの状態を良好に保つため、インクカートリッジを抜き、白インクをよく振ってください。

メディアについて

使用可能なメディアサイズと、その取り扱い方法について説明します。

使用可能メディアサイズ

	JF-1631	JF-1610
最大幅	1694 mm	
最大長	3194 mm	1080 mm
最大作図幅	1602 mm	
最大作図長	3100 mm	1016 mm
厚さ	50 mm 以下	
重量*1	200 kg 以下	70 kg 以下

*1: 1m2 あたり 50kg が目安です。

メディア取り扱い上の注意

装置破損や印刷物不良発生を防ぐため、次の点にご注意ください。



- **メディアの伸縮**
包装を開けて間もないシート状のメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。開封後、30分以上、使用する場所の外気にさらす必要があります。
- **メディアの反り**
板状メディアは、平らなもの、作図面を上にして下に反っているもの（中央が浮いているもの）をご使用ください。上に反っているメディアは、テーブルに吸着できない場合があります。反りやすいメディアは、一回り小さめの台やパレットの上に置くなど、下反りになるように保管してください。
- **メディアの吸着**
吸着効果を維持するために、メディアが覆えないテーブル上の吸着穴は、使用するメディアよりも薄いメディアで塞いでください。
- **メディア表面が高温になることがあります**
メディア種類・印字モード・印刷面積によって、印刷中のメディア表面が高温になることがあります。（1200 × 1200dpi / 16pass / Hi で印刷した場合、白 PET で最大 57.8℃ 段ボールで最大 88.1℃）
熱がこもるメディアをお使いになる場合は、作図方式の設定の「ロジカルシーク」を“OFF”にしてください。（ P.3-10）
- **その他の注意点**
 - a コート紙の表面に物を置かないでください。コート紙によっては変色する場合があります。
 - b 吸着しきれないカールしたメディアや、Yバー移動時にずれてしまうメディアは使用できません。テープ貼付などでメディアを固定してからご使用ください。
 - c ロジカルシークの設定を“OFF”にしても、反りや変形が生じるメディアは使用しないでください。
 - d 盤面は複数枚の板で構成されているため、メディアの厚みやコシによっては継ぎ目が印刷画像に反映されます。また、バキューム穴も同様に印刷画像に影響を与えることがあります。事前にテスト作図を行い、問題のないことを確認してから、印刷を行ってください。

メニューモードについて

本装置には3つのモードがあります。各メニューモードについて説明します。

ローカルモード

ローカルモードは、作図準備状態のモードです。

全てのキーが有効です。

コンピュータから、データを受信できます。ただし、作図は行いません。

ローカルモードでは以下の操作が可能です。

- (1) ジョグキーを押して、作図原点や作図範囲を設定します。
- (2) **TEST** キーを押して、「テスト作図」を行います。
- (3) **CLEANING** キーを押して「ヘッドクリーニング」を行います。
- (4) **FUNCTION** キーを押して、各種機能を設定します。(→ファンクションモード)

ファンクションモード

ローカルモード時に、**FUNCTION** キーを押すとファンクションモードになります。

作図方法に関する機能設定を行います。

リモートモード

受信したデータを作図します。

作図中に**REMOTE** キーを押すと、一時停止します。

ローカルモード時は、**REMOTE** キーを押すとリモートモードになります。

UV ランプが点灯していない場合、UV ランプの点灯を行います。

第2章

基本的な使い方



この章では ...

インクやメディアの準備から作図までの手順や設定方法について説明します。

開閉扉の使いかた	2-2
作業の流れ	2-3
電源を入れる	2-4
メディアをセットする	2-5
JF-1610 でメディアをセットする	2-5
JF-1631 でメディアをセットする	2-6
ロールシートを使うとき	2-8
テスト作図をする	2-9
テスト作図を行う	2-9
ヘッドクリーニングを実行する	2-10
“ノーマル” または “ハード” でクリーニング するとき	2-10
“ワイピング” でクリーニングするとき	2-11
データを作図する	2-12
作図を開始する	2-12
作図を中止する	2-13
Yバーを移動させる	2-14
電源を切る	2-16

開閉扉の使いかた

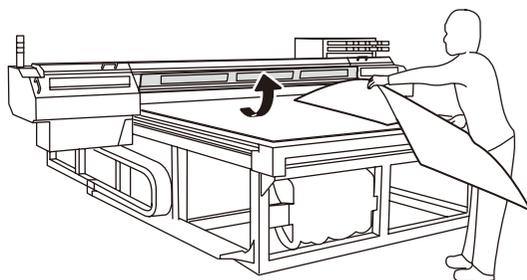
UV ランプからの悪影響を受けないように、作図をするときは開閉扉を閉めてください。

メディアをセットするときは

1 開閉扉を開けてから、メディアをセットする

重要!

- メディアをセットするとき、開閉扉にぶつけないようにしてください。振動で扉が閉まる場合があります。

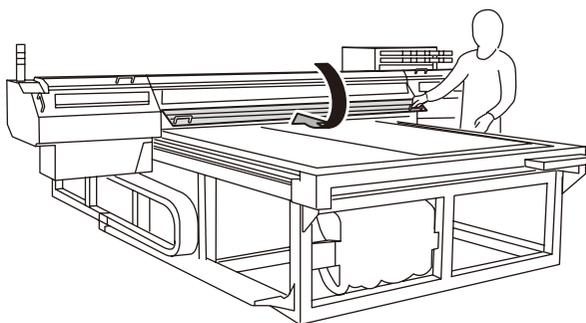


作図をするときは

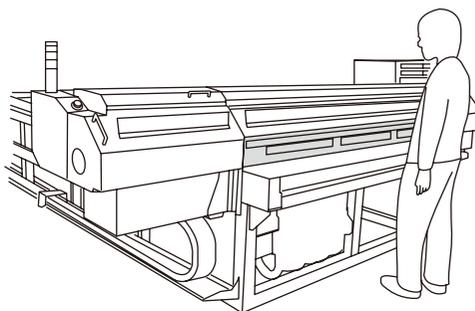
1 開閉扉を閉める

重要!

- 開閉扉が破損しないように、ゆっくりと閉めてください。



2 開閉扉を閉めたまま、作図をする



- 作図中は、開閉扉を開けないでください。UV 光により目や皮膚にダメージを受ける恐れがあります。
- 作図中に開閉扉の下に手を差し込むと、キャリッジに当たり、ケガをする恐れがあります。

作業の流れ

2

基本的な使い方

1

電源を入れる

「電源を入れる」(P.2-4)を参照してください。

2

メディアをセットする

「メディアをセットする」(P.2-5)を参照してください。

3

テスト作図をする

「テスト作図をする」(P.2-9)を参照してください。

4

ヘッドクリーニングを実行する

「ヘッドクリーニングを実行する」(P.2-10)を参照してください。

5

データを作図する

「データを作図する」(P.2-12)を参照してください。

6

電源を切る

「電源を切る」(P.2-16)を参照してください。

電源を入れる

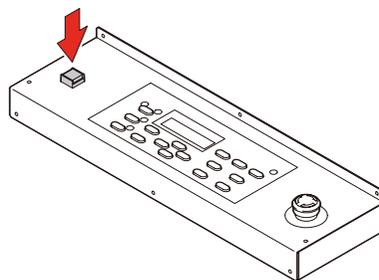


- 電源を入れると、初期動作のためYバーが移動します。テーブルに手をつけていると危険です。
- 温水装置の温度が規定の温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができるようになります。

1

電源ボタンを押す

- 操作パネルの左側にある電源ボタンを押して点灯させます。
- 主電源スイッチが入っていないと、電源ボタンを押しても電源は入りません。ボタンを押してもランプが点灯しないときは、装置背面の主電源スイッチを確認してください。
- 電源をオンにするとファームウェアのバージョンを表示します。
- 初期動作を実行します。



```
JF-1631  start-up  
ver. *.* **
```

シバ[®] ラク オマチクタ[®] サイ

2

ローカルモードになる

<ローカル>

2.5mm

3

接続しているコンピュータの電源をオンにする

メディアをセットする

重要!

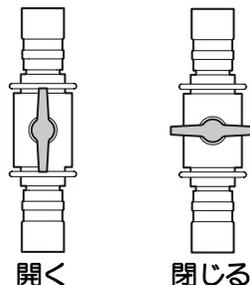
- 吸着エリア内に、メディアで塞がれない吸着穴があるときは、紙やフィルム、テープなどの薄いシート上のもを敷いて吸着穴を塞いでください。
- メディア外周部は、熱により反り返ることがあります。補助的に粘着テープなどを使って固定してください。
- テーブルの端（3辺）に、市販のネジ等を差し込むためのガイド穴を設けています。メディアをまっすぐにセットするためのガイドとしてお使いください。（P3-21）

JF-1610 でメディアをセットする

1

セットするメディアの大きさに合わせて、テーブル前面の吸引バルブを切り替える

- バルブは、ハンドルを縦にすると開き、横にすると閉じます。



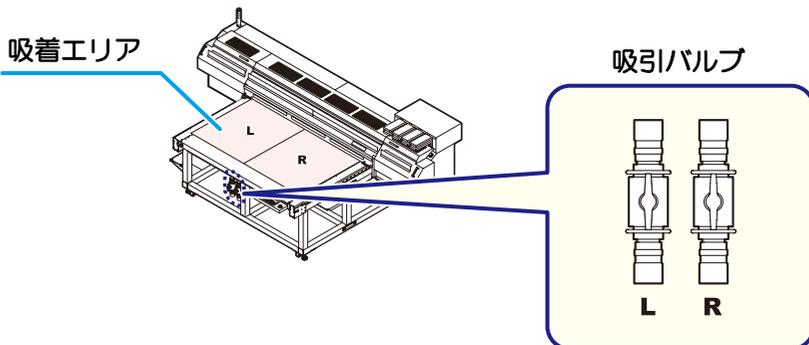
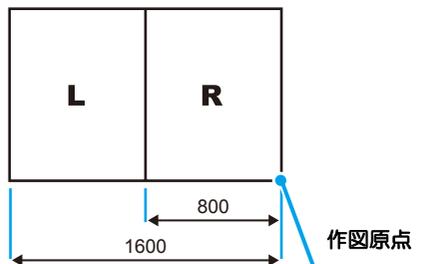
2

VACUUM/BLOW キーを押して、“VACUUM” ランプを点灯させる

3

ON/OFF キーを押して、メディアをテーブルに吸着させる

- ON/OFF** キーを押して、バキュームを ON/OFF します。
- 吸着エリアは右図のようになります。
- 原点を変更したいときは、P.3-2 を参照してください。



2

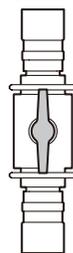
基本的な使い方

JF-1631 でメディアをセットする

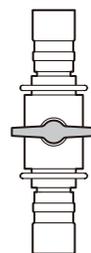
1

セットするメディアの大きさに合わせて、テーブル前面の吸引バルブを切り替える

- バルブは、ハンドルを縦にすると開き、横にすると閉じます。



開く



閉じる

2

VACUUM/BLOW キーを押して、“VACUUM” ランプを点灯させる

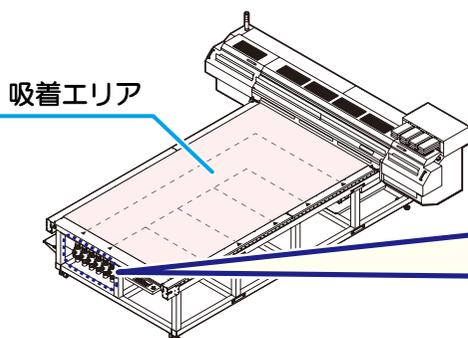
3

FRONT **REAR** キーを押して、メディアをテーブルに吸着させる

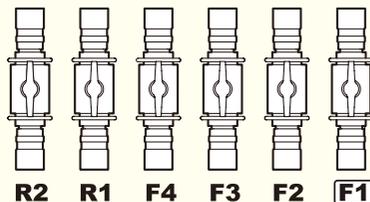
FRONT キー：[F] で始まる吸着エリアのバキュームを ON/OFF する

REAR キー：[R] で始まる吸着エリアのバキュームを ON/OFF する

- 吸着エリアについて、詳しくは P.2-7 をご参照ください。

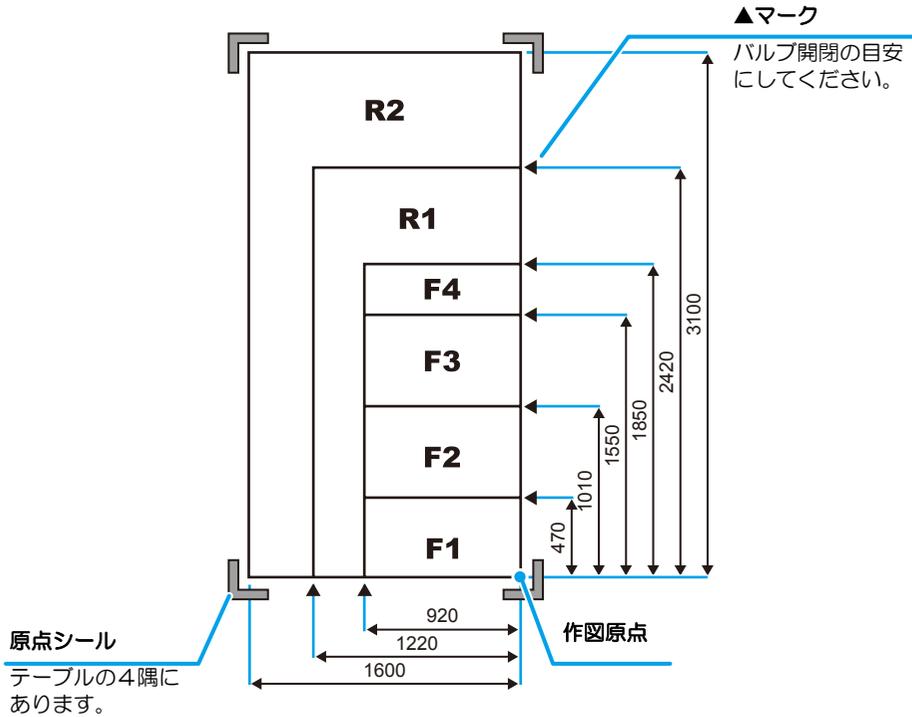


吸引バルブ



吸着エリアについて

JF-1631 の吸着エリアは、下図のようになっています。(FRONT) (REAR) キーを押して、セットするメディアのサイズに最適な吸着エリアを設定してください。



- 原点を変更したいときは、P.3-2 を参照してください。

メディアのサイズとバルブの切替について

定尺メディアをお使いのときは、次のように吸引バルブとバキュームを設定してください。

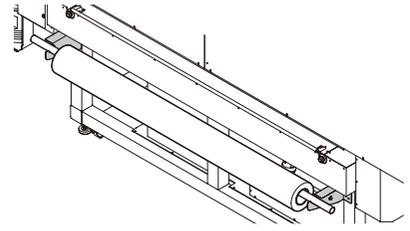
メディアサイズ	吸引バルブ						バキュームの設定	
	F1	F2	F3	F4	R1	R2	FRONT	REAR
3'×6'板	開く	開く	開く	開く	閉じる	閉じる	ON	OFF
4'×8'板	開く	開く	開く	開く	開く	閉じる	ON	ON
5'×10'板	開く	開く	開く	開く	開く	開く	ON	ON



- 定尺以外のメディアをお使いの場合、メディアの大きさよりも広い範囲の吸着エリアに対応した吸引バルブを開いてください。

ロールシートを使うとき

装置背面のロールシートハンガーにロールシートをセットしてお使いになれます。



テスト作図をする

テスト作図を行い、ノズル詰まりなどの作図不良（カスレや抜け）がないか確認します。

テスト作図を行う



- 次のようなメッセージが表示されている場合は、作図ができません。しばらくして、メッセージが消えてから作図してください。
“オンスイ ジュンピチュウ”：温水装置の温水が一定温度に達していない
“UV ジュンピチュウ”：UV 照射器具の準備が完了していない

テスト作図の前に確認してください	•メディアをセットしているか (☞ P.2-5)	•原点位置をセットしているか
	•ヘッドギャップ値を登録しているか (☞ P.3-7)	

1 ローカルモードで、**TEST** キーを押す

テスト サクス
ノズルチェック <ent>

2 **▲ ▼** を押し “ノズルチェック” を選ぶ

- “コウカチェック” を選ぶと、UV インクが固まっていないか（硬化）を確認できます。(☞ P.4-44)

3 **ENTER** キーを押す

** テスト サクス **

- テスト作図を開始します。

4 テスト作図が終了する

- ローカルモードになります。
- Yバーをテーブルから退避させたいときは、P.2-14 の操作をしてください。

5 作図結果を確認する

- 正常な場合は、データを作図してください。(☞ P.2-12)
- 異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(☞ P.2-10)

正常なパターン	異常なパターン		
	ドカ抜け	ノズル抜け	飛行曲がり
	<p>たくさんの線が抜けている</p>	<p>線が歯抜けしたように欠けている</p>	<p>線の間隔が詰まったり二重になっている</p>

2
基本的な使い方

ヘッドクリーニングを実行する

テスト作図で正常な作図結果が得られない場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。ヘッドクリーニングには、次の3種類があります。

ノーマル	テストパターンを作図したとき、線の抜けが10数本のときに使用します。キャップによる吸引とワイピングを行います。	 P.2-10
ワイピング	テストパターンを作図したとき、線の抜けが数本のときに使用します。ワイパーによるワイピングのみ行います。	 P.2-11
ハード	ノーマルで線の抜けが改善しないときに使用します。キャップにより強力に吸引します。	 P.2-10



- ヘッドクリーニングを実行すると、UVランプは自動的に消灯します。(再点灯に約5分かかります。)
- テスト作図をするとき、UVランプを点灯しない設定にしておく ( P.3-12) とクリーニングが早くできます。(ただし、インクを弾くメディアの場合はインクが流れてしまい、作図結果の確認が困難になります。)

“ノーマル” または “ハード” でクリーニングするとき

1

ローカルモードで、
CLEANING キーを押す

クリーニング
タイプ : ノーマル

2

  でクリーニングタイプ
を選択し、**ENTER** キーを押す

クリーニング
タイプ : ハード

3

ヘッドを選び、クリーニングす
る / しないを設定する

クリーニング
ヘッド [MC  KKYCM]

-   でヘッドを選ぶ
-   でクリーニングする / しないを選ぶ

- 全てのヘッドに対して、クリーニングの実行を選択してください。
- クリーニングする : セットされているインクカートリッジの色を表示
クリーニングしない : “_” を表示

クリーニング
ヘッド [MC  KKYCM]

4

ENTER キーを押す

- クリーニングを開始します。
- クリーニングが終了すると、ローカルモードになります。

5

テスト作図を行い、作図結果を確認する

- 作図結果が正常になるまで、クリーニングとテスト作図を繰り返してください。

“ワイピング”でクリーニングするとき

1

ローカルモードで、
(CLEANING) キーを押す

クリーニング*
 タイプ : ノーマル

2

(▲) **(▼)** でワイピングを選択し、
(ENTER) キーを押す

クリーニング*
 タイプ : ワイピング…

3

ヘッドを選び、クリーニングする/しないを設定する

クリーニング*
 ヘッド : [MC**Y**KKYCM]

- (1) **(◀)** **(▶)** でヘッドを選ぶ
 (2) **(▲)** **(▼)** でクリーニングする/しないを選ぶ

クリーニング*
 ヘッド : [MC**■**KKYCM]

- 全てのヘッドに対して、クリーニングの実行を選択してください。
 キー : セットされているインクカートリッジの色を表示
 キー : クリーニングしない : “_” を表示

4

(ENTER) キーを押す

5

(▲) **(▼)** でワイピングの回数
 (1 ~ 10 回) を選択する

クリーニング*
 ワイプ カイスウ : 1

6

(ENTER) キーを押す

- クリーニングを開始します。
- クリーニングが終了すると、ローカルモードになります。

7

テスト作図を行い、作図結果を確認する

- 作図結果が正常になるまで、クリーニングとテスト作図を繰り返してください。



- ヘッドクリーニングを繰り返しても作図結果が改善されない場合は、ワイパやキャップのクリーニングをする必要があります。P.4-26「ワイパとキャップのクリーニング」を参照してください。
- ワイパとキャップのクリーニングをしてからヘッドクリーニングを繰り返しても作図結果が改善されない場合は、インクを充填し直してください。(P.4-20)

2

基本的な使い方

データを作図する

作図を開始する



- UV 照射器具の準備が完了していない場合、または温水装置の温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は、作図できません。表示が消えると、作図ができます。



- 両方のエラー表示がされていても、データは送信できます。作図は表示が消えてから開始します。

1

メディアをセットする (☞ P.2-5)

- (1) メディアのサイズに合わせて、吸引バルブを開閉する
- (2) **VACUUM/BLOW** キーを押して、VACUUM ランプを点灯させる
- (3) **FRONT** **REAR** キーを押して、メディアを吸着させる
(JF-1610 の場合は、**ON/OFF** キーを押して吸着させる)

2

ローカルモードで、**REMOTE** キーを押す

リモート

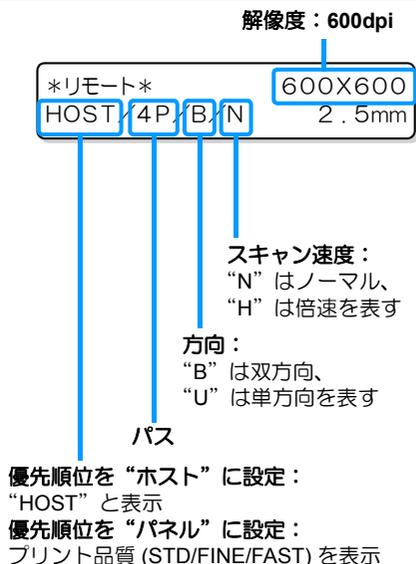
2.5mm

- リモートモードになり、コンピュータからのデータを受信できるようになります。
- UV ランプが消灯していた場合、点灯します。

3

コンピュータから作図する データを送信する

- 作図条件を表示します。
- データの送信方法については、出力ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。



4

作図開始

- 作図原点は、作図が終了しても変更されません。

5

作図終了後、メディアを取り外す

- (1) 「Y バーを移動させる」(P.2-14) の操作をして、Y バーをテーブルの外に退避させる
- (2) **FRONT** **REAR** (JF-1610 は **ON/OFF**) キーを押して、吸着を OFF にする
- (3) **VACUUM/BLOW** キーを押して、BLOW ランプを点灯させる
- (4) **FRONT** **REAR** (JF-1610 は **ON/OFF**) キーを押して、ブローを ON にする
- (5) メディアを取り除く
- (6) **FRONT** **REAR** (JF-1610 は **ON/OFF**) キーを押して、ブローを OFF にする

重要!

- 作図中に UV ランプによる熱で、メディアが浮き上がり、作図が中断される場合があります。新しいメディアをセットし直し、作図を開始してください。

作図を中止する

作図を途中で中止する場合、作図動作を止め、すでに受信したデータを本装置から消去します。

1

作図中に、**REMOTE** キーを押す

<ローカル>

2.5mm

- 作図動作を中止します。
- コンピュータからデータを送信している場合は、コンピュータ側でデータ送信を止めます。

2

DATA CLEAR キーを押す

データ クリア

<ENT>

3

ENTER キーを押します。

** データ クリア **

- 受信データを消去し、ローカルモードに戻ります。

2

Yバーを移動させる

作図結果を確認したいときなどに、Yバーを移動させることができます。
あらかじめ、Yバーの退避位置(ビュー位置)を設定してください。

ビュー位置を設定する

1

ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
UVランプ ショウトウ <ENT>

2

ENTER キーを押す

ビュ
イトウ カイシ <ent>

3

▼ を押す

ビュ
ビュー イチ セツテイ <ent>

4

ENTER キーを押す

ビュ
イチ : **** ミリ

5

▼ **▲** を押して、移動位置
を設定する

ビュ
イチ : 500 ミリ

- ▲** を押すと：作図原点を中心に、テーブルの奥側へYバーが移動
- ▼** を押すと：作図原点を中心に、テーブルの前側へYバーが移動

6

ENTER キーを押す

イトウ チュウ
シバ ラクオマチクダ サイ

- 値が設定され、手順2の画面に戻ります。

Yバーをビュー位置へ移動させる

1

ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
ビ ュー <ENT>

2

ENTER キーを押す

ビ ュー
イト* ウ カイシ <ent>

3

ENTER キーを押す

・ Yバーが移動します。

イト* ウチュウ
シバ* ラクオマチクタ* サイ

2

基本的な使い方

電源を切る

電源を切るときは、データを受信していないか、未出力のデータが残っていないかを確認してください。

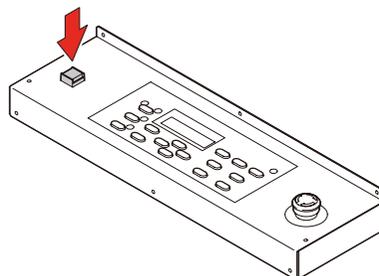
1

接続してあるコンピュータの電源をオフにする

2

電源ボタンを押して、電源を切る

- UV ランプが点灯している場合は、UV ランプのクールダウン動作を行います。
- クールダウン処理後にキャッピングを行ったあと、自動的に電源が切れます。



本装置を長期間使用しない場合は、以下のようにしてください。

- (1) 電源ボタンを押して、ランプを消灯させる
- (2) クールダウン動作が終了したことを確認する
- (3) 装置背面にある主電源スイッチを切る
 - 主電源スイッチは、クールダウン処理の終了を確認してから切ってください。

第3章 便利な使い方



この章では ...

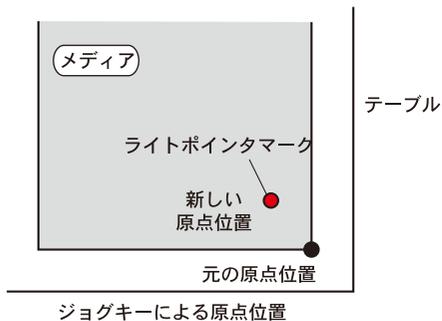
本装置をより便利に使うための操作方法や、各種設定方法について説明しています。

原点を変更する.....	3-2	各種設定	3-10
ジョグキーを使って作図原点を		作図方式を設定する	3-10
変更する	3-2	UV ランプの光量を設定する	3-12
ファンクションメニューを使って		優先順位の設定をする	3-14
作図原点を変更する	3-3	画面の言語表示を切り替える	3-16
メディアの厚みを登録する.....	3-4	設定リストを出力する	3-17
メディアの厚みを手動で登録する ...	3-4	本装置のマシン情報を表示する	3-18
メディアの厚みを自動測定する	3-5	その他の便利な設定	3-19
ヘッドギャップの調整をする	3-6	設定した内容を初期状態に戻す	3-20
UP DOWN キーを使ってヘッド		メディアをまっすぐにセットする	
ギャップを調整する	3-6	ために	3-21
ヘッドギャップ値の登録	3-7		
UV ランプを消灯する	3-8		
その他の便利な機能.....	3-9		
データクリア	3-9		
本装置の情報を表示する	3-9		

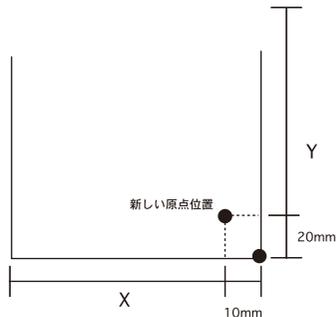
原点を変更する

お買い上げ時に設定されている原点の位置を変更することができます。
変更方法には次の2つがあります。

ジョグキー(▲▼◀▶)で変更する



ファンクションメニューの“ゲンテン”で変更する



ジョグキーを使って作図原点を変更する

- 1** ローカルモードで、
ジョグキー(▲▼◀▶)を押す

ゲンテン セッテイ
0.0 ---

 - ・ 原点設定モードになります。
 - ・ テーブル、またはメディア上に赤いライトポインタ「●」マークが映ります。
- 2** ジョグキー(▲▼◀▶)を押して、
ライトポインタマークを移動させる

ゲンテン セッテイ
500.0 600.0
原点位置(前後) 原点位置(左右)

 - ・ 新しく原点を設定する位置に、ライトポインタマークを移動します。
- 3** 作図原点を決定したら、
ENTERキーを押す

** ゲンテン **

 - ・ 原点が変更されます。

重要! ・ ジョグキーで設定した原点は、電源を切ると設定値がクリアされます。

ファンクションメニューを使って作図原点を変更する

原点位置を正確に設定する場合、ファンクションメニューから X,Y 原点の設定をします。この設定で原点を設定した場合、設定した値が原点位置（0.0）となります。

1

ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
 ビュー <ENT>

2

▲ ▼ を押して [ゲンテン] を選び、**ENTER** キーを 2 回押す

- X 軸のオフセット値設定画面になります。

ゲンテン (500mm)
 Xオフセット : 0mm

3

▲ ▼ を押して、
 数値を入れる

- X 軸の原点位置を設定します。
- 1 行目のカッコ内の数値は、原点から最大有効範囲までの距離を表します。

ゲンテン (490mm)
 Xオフセット : 10mm

4

ENTER キーを押す

ゲンテン
 センタク: Xオフセット

5

▲ ▼ を押して [Y オフセット] を選び、**ENTER** キーを押す

ゲンテン (600mm)
 Yオフセット : 0mm

6

▲ ▼ を押して、
 数値を入れる

- Y 軸の原点位置を設定します。

ゲンテン (590mm)
 Yオフセット : 10mm

7

ENTER キーを押す

ゲンテン
 センタク: Xオフセット

8

終了するとき、**END** キーを 2 回押す

重要! • 設定した原点は、電源を切ってもクリアされません。

3

便利な使い方

メディアの厚みを登録する

セットするメディアの厚みを登録します。
登録方法には、厚みを手動で登録する方法と、厚みを自動測定する方法の2種類があります。

メディアの厚みを手動で登録する

- 1** ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す
FUNCTION
ビ ュー <ENT>
- 2** **▲** **▼** を押して [ヘッド
タカサ] を選ぶ
FUNCTION
ヘッド タカサ <ENT>
- 3** **ENTER** キーを押す
ヘッド タカサ
メデ ィア アツミ <ent>
- 4** **ENTER** キーを押す
メデ ィア アツミ
2.5 mm
- 5** **▲** **▼** を押してセットする
メディアの厚みを入力する
メデ ィア アツミ
10.5 mm
・ 設定値 : 0.0 ~ 50.0mm
- 6** **ENTER** キーを押す
FUNCTION
ヘッド タカサ <ENT>
- 7** **END** キーを押して、
終了する

メディアの厚みを自動測定する

1	ローカルモードで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION ビ ュー <ENT>
2	▲▼を押して [ヘッド タカサ] を選ぶ	FUNCTION ヘッド タカサ <ENT>
3	ENTER キーを押す	ヘッド タカサ メディア アツミ <ent>
4	▲▼を押して [アツミ ソクテイ] を選ぶ	ヘッド タカサ アツミ ソクテイ <ent>
5	ENTER キーを押す <ul style="list-style-type: none">測定準備のため、Y バーが最上点まで上昇します。キャリッジが作図範囲へ移動します。	アツミ ソクテイ イトウ チュウ ↓ アツミ ソクテイ ソクテイ カイシ :ent
6	ENTER キーを押す <ul style="list-style-type: none">メディアの厚みを自動的に測定します。測定した厚みを表示します。キャリッジが退避位置へ移動し、手順4の画面に戻ります。	アツミ ソクテイ ** ソクテイ チュウ ** ↓ アツミ ソクテイ 3.0mm :ent ↓ ヘッド タカサ アツミ ソクテイ <ent>
7	END キーを2回押して、 終了する	

ヘッドギャップの調整をする

ヘッドとメディアのギャップ値を調整します。
設定方法には、キーで選択する方法と、ファンクションメニューの“ヘッドギャップ”で設定する方法の2つがあります。

UP **DOWN** キーを使ってヘッドギャップを調整する

1

UP または **DOWN** キーを
押す

ゲ ン テ ン セ ッ テ イ
Z タ カ サ = 45.0

2

UP または **DOWN** キーを
押して、調整する

ゲ ン テ ン セ ッ テ イ
Z タ カ サ = 55.0

3

ENTER キーを押す

ゲ ン テ ン セ ッ テ イ
ヘ ッ ド ギ ャ ッ プ = 1.2

ヘッドギャップ値の登録

ヘッドとメディアとのギャップ値を入力します。ここで登録した値が、すべてのメディアに反映されます。

- | | | |
|---|--|------------------------------|
| 1 | ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す | FUNCTION
ビ ュー <ENT> |
| 2 | ▲ ▼ を押して [ヘッド
タカサ] を選ぶ | FUNCTION
ヘッド タカサ <ENT> |
| 3 | ENTER キーを押す | ヘッド タカサ
メデ ィア アツミ <ent> |
| 4 | ▲ ▼ を押して [ヘッド
ギャップ] を選ぶ | ヘッド タカサ
ヘッド ギ ャ ッ プ <ent> |
| 5 | ENTER キーを押す | ヘッド ギ ャ ッ プ
2.5mm |
| 6 | ▲ ▼ を押してヘッド
ギャップ値を入力する

・ 設定値：1.0～5.0mm | ヘッド ギ ャ ッ プ
4.0mm |
| 7 | ENTER キーを押す | ヘッド タカサ
ヘッド ギ ャ ッ プ <ent> |
| 8 | END キーを2回押して、
終了する | |



- ・ヘッドギャップ値に適正な値が設定されていないと、作図中、メディアに大きなインク滴が落ちるなど、作図品質に影響が出ることがあります。

UV ランプを消灯する

作図終了後、UV ランプは約 30 分で自動的に消灯します。(お買い上げ時)
UV ランプをすぐに消灯させたいときは、次の操作をしてください。

1	ローカルモードで、 FUNCTION キーを押す	FUNCTION ビ ュー <ENT>
2	▲ ▼ を押して [UV ラン プショウトウ] を選ぶ	FUNCTION UVランプ ショウトウ <ENT>
3	ENTER キーを押す	UVランプ ショウトウ ショウトウ カイシ <ent>
4	ENTER キーを押す <ul style="list-style-type: none">UV ランプの消灯動作を開始します。 (作図ができなくなります)消灯が完了すると、右の画面を表示 します。UV ランプを冷却します。(約 5 分間)UV ランプ冷却中は、表示灯のオレ ンジ部分が点灯します。	UVランプ ショウトウ ショウトウ カンリョウ

その他の便利な機能

データクリア

本装置に必要な作図データがある場合、次の操作をして消去してください。

1

ローカルモードで、
DATA CLEAR キーを押す

データクリア
<ENT>

2

ENTER キーを押す
・データが消去されます。

** データクリア **

本装置の情報を表示する

1

ローカルモードで

<ローカル>
2.5mm

2

ENTER キーを押すごとに、
順次情報が表示される

- ・表示する情報は、次の項目です。
インク残量 / バージョン情報 / コマンド情報 / UV ランプの照射時間
- ・UV ランプの照射時間は、左側に左側のランプの照射時間、右側に右側のランプの照射時間を表示します。

インク残量

<ローカル> KCMY cmW-
ザンリョウ 9999999-

バージョン / コマンド情報

JF-16** V1.00
MRL-11B V1.20

UV ランプ照射時間

<ローカル>
ショウシャジ カン 120, 120

3

ENTER キーを押して、ローカルモードに戻る

<ローカル>
2.5mm



- ・使用機種情報について、P.3-18「本装置のマシン情報を表示する」でも確認することができます。
- ・UV ランプの照射時間について、詳しくは P.4-40「UV ランプの照射時間を確認する」を参照してください。

3

便利な使い方

各種設定

作図方式を設定する

作図に関する設定をします。

- 1** ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す FUNCTION
ビ ュー <ENT>
- 2** **▲** **▼** を押して[セッテイ]
を選ぶ FUNCTION
セッテイ <ENT>
- 3** **ENTER** キーを押す セッテイ
フィード ホセイ <ent>
- 4** **▲** **▼** を押して[サクズホ
ウシキ]を選ぶ セッテイ
サクズ ホウシキ <ent>
- 5** **ENTER** キーを押す セッテイ
サクズ ヒンシツ <ent>
- 6** **▲** **▼** を押して設定する項目を選ぶ
・ 設定項目については、次ページの表を参照してください。
- 7** **ENTER** キーを押す
- 8** **▲** **▼** を押して設定値を選ぶ
・ 設定値については、次ページの表を参照してください。
- 9** **ENTER** キーを押す

10

終了するとき、**END** キーを 3 回押す



- 設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定項目	設定値	概 要
サクズ ヒンシツ	ヒョウジュン	標準的な作図品質
	キレイ	高品質な作図をしたいとき（作図スピードは遅くなります）
	ハイ	速く作図したいとき（画質はやや劣ります）
スキャン ホウコウ	ソウホウコウ	作図でヘッドがメディア上を移動するとき、左右両方から作図します。（“タンホウコウ”より速く作図ができます）
	タンホウコウ	作図でヘッドがメディア上を移動するとき、片方向から作図します。（より高品質な作図ができます）
	タンホウコウ UV1	作図をするとき、右側の UV ランプだけを使って作図します。
ロジカル シーク	ON	作図するデータ幅に合わせて、ヘッドが移動します。
	OFF	作図するときは、テーブル幅いっぱいヘッドが移動します。

UV ランプの光量を設定する

UV ランプの光量は 3 段階に設定できます。

熱に弱いメディアを使用するときや、クリーニング中のテスト作図などで UV ランプを点灯させたくないときなどに設定します。

ツヨイ	100%の照度で UV ランプが点灯します。
ヒョウジュン	60%の照度で UV ランプが点灯します。
ヨワイ	40%の照度で UV ランプが点灯します。
ナシ	作図時、UV ランプは点灯しません。
インサツナシ	作図は行わずに、UV ランプだけ点灯させます。作図時に UV ランプを点灯させなかったときなどに、後から硬化させたいときに使用します。(通常は設定しません)

1

ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
ビ ュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して [セッテイ]
を選ぶ

FUNCTION
セッテイ <ENT>

3

ENTER キーを押す

セッテイ
フィード* ホセイ <ent>

4

▲ **▼** を押して [UV コウ
リョウ] を選ぶ

セッテイ
UV コウリョウ <ent>

5

ENTER キーを押す

セッテイ
UV コウリョウ :ヒョウジ ユン

6

▲ **▼** を押して光量を選ぶ

・ 設定値：ツヨイ、ヒョウジュン、ヨワイ、ナシ、インサツナシ

7

ENTER キーを押す

8

終了するとき、**END** キーを 2 回押す



- リモート作図時の UV ランプの光量は、RIP 側から設定できます。詳しくは、お使いの RIP の取扱説明書を参照してください。

優先順位の設定をする

次の各項目について、本装置での設定を優先するか、コンピュータでの設定を優先するかを選択します。

選択する項目：作図方式 / 重ね塗り

- 1** ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
ビ ュー <ENT>
- 2** **▲** **▼** を押して【セッテイ】
を選ぶ

FUNCTION
セッテイ <ENT>
- 3** **ENTER** キーを押す

セッテイ
フィード ホセイ <ent>
- 4** **▲** **▼** を押して【コウセン
ジュンイ】を選ぶ

セッテイ
コウセン ジ ユンイ <ent>
- 5** **ENTER** キーを押す

セッテイ
サクズ ホウシキ :ホスト

・ 作図方式の設定画面が表示されます。
- 6** **▲** **▼** を押して“ホスト”
または“パネル”を選ぶ

セッテイ
サクズ ホウシキ :パ ネル

・ ホスト：コンピュータの設定を優先
パネル：本装置での設定を優先
- 7** **ENTER** キーを押す
- 8** 手順 6、7 の操作と同様にして、
他の項目も設定する

9

終了するとき、**END** キーを 2 回押す



- 設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

画面の言語表示を切り替える

ディスプレイに表示する言語を日本語または英語から選べます。

1

ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
ビ ュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して
[DISPLAY] を選ぶ

FUNCTION
DISPLAY <ENT>

3

ENTER キーを押す

DISPLAY
English <ent>

4

▲ **▼** を押して言語を選ぶ

- お買い上げ時は、“English” に設定されています。

DISPLAY
Japanese <ent>

5

ENTER キーを押す

6

終了するとき、**END** キーを
押す



- 設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定リストを出力する

お客様の控え、または保守問い合わせ時の FAX 用にご使用してください。

- 1 A4 サイズ以上のメディアをセットする (🔧 P.2-5)

- 2 ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
 ビュー <ENT>

- 3 **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選ぶ

FUNCTION
 メンテナンス <ENT>

- 4 **ENTER** キーを押す

メンテナンス
 ステーション メンテ <ent>

- 5 **▲** **▼** を押して [リスト] を選ぶ

メンテナンス
 リスト <ent>

- 6 **ENTER** キーを押す

メンテナンス
 サクス* チュウ

 - 設定リストの出力を開始します。

- 7 終了するとき、**END** キーを押す



- 設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

本装置のマシン情報を表示する

1

ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
ビ ュー <ENT>

2

▲ **▼** を押して [メンテナ
ンス] を選ぶ

FUNCTION
メンテナンス <ENT>

3

ENTER キーを押す

メンテナンス
ステーション メンテ <ent>

4

▲ **▼** を押して [マシン
ジョウホウ] を選ぶ

メンテナンス
マシン ジョウホウ <ent>

5

ENTER キーを押す

メンテナンス
バージョン <ent>

6

▲ **▼** を押して表示する情
報を選び、**ENTER** キーを押す

- 表示できる情報は次の2つです。
本装置のFWバージョン
シリアルNo.

バージョン情報

メンテナンス
MAIN Ver 1.00

シリアルNo.情報

メンテナンス
S/N 00000000

7

終了するとき、**END** キーを3回押す

その他の便利な設定

使い方に合わせて設定を変えてください。

1

ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す

FUNCTION
ビュール <ENT>

2

▲ **▼** を押して[セッテイ]
を選ぶ

FUNCTION
セッテイ <ENT>

3

ENTER キーを押す

セッテイ
フィード ホセイ <ent>

4

▲ **▼** を押して設定する項目を選び、**ENTER** キーを押す

- ・ 設定一覧表を参照して選択してください。

5

▲ **▼** を押して設定値を選び、**ENTER** キーを押す

- ・ 設定一覧表を参照して選択してください。

6

終了するとき、**END** キーを 2 回押す



- ・ 設定した値は、電源を切ってもクリアされません。

設定一覧表

設定項目	設定値	概要
カサネヌリ	1～9回	インクの重ね塗りをするときの回数を設定します。重ね塗りをすることで、よりキレイな作図ができます。
リフレッシュ	レベル0～3	ホコリが多い場所などで、ヘッドのインク詰まりが起こらないよう、プリントヘッドのリフレッシュレベルを設定します。レベル数が大きいほど、リフレッシュ回数が多くなります。レベル=0のときはリフレッシュを行いません。
ミリ/インチ	ミリ	ディスプレイに表示される設定値の単位を、ミリで表示します。
	インチ	ディスプレイに表示される設定値の単位を、インチで表示します。
UV スキャン ツイカ	1～9回	作図終了後、画像の末端部分に UV を照射して硬化させるための追加スキャン回数を指定します。

3

便利な使い方

設定した内容を初期状態に戻す

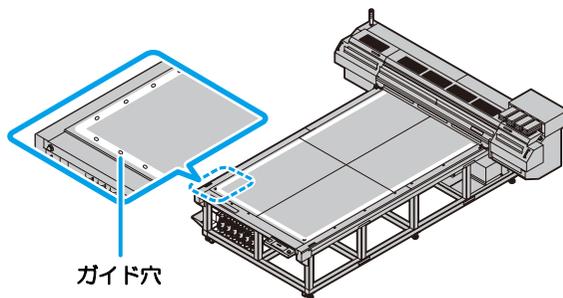
- | | | |
|---|------------------------------------|-------------------------|
| 1 | ローカルモードで、
FUNCTION キーを押す | FUNCTION
ビ ュー <ENT> |
| 2 | ▲▼を押して[セッテイ]
を選ぶ | FUNCTION
セッテイ <ENT> |
| 3 | ENTER キーを押す | セッテイ
フィード ホセイ <ent> |
| 4 | ▲▼を押して[セッテイ
リセット]を選ぶ | セッテイ
セッテイ リセット <ent> |
| 5 | ENTER キーを押す | セッテイ
シヨキカ シマスカ? :ent |
| 6 | ENTER キーを押す
・ 設定を初期化します。 | |
| 7 | 終了するとき、 END キーを 2 回押す | |

重要! ・ [セッテイリセット] では、設定項目で変更した内容のみ初期化できます。

メディアをまっすぐにセットするために

テーブルの端（3 辺）に市販のネジ等を差し込むためのガイド穴を用意しています。

- 用意したガイド穴を使用して、メディアをまっすぐにセットするためのガイド等を取り付けることができます。

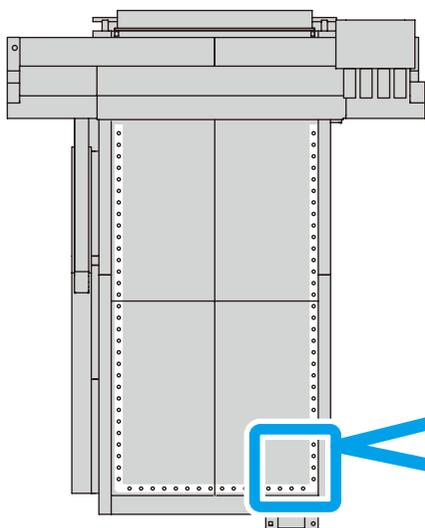


重要!

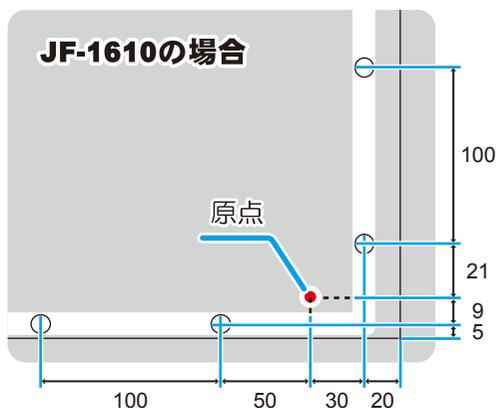
- ガイドとしてご使用になるものの高さが、メディアより高くないようにお気をつけください。

ガイド穴の配置について

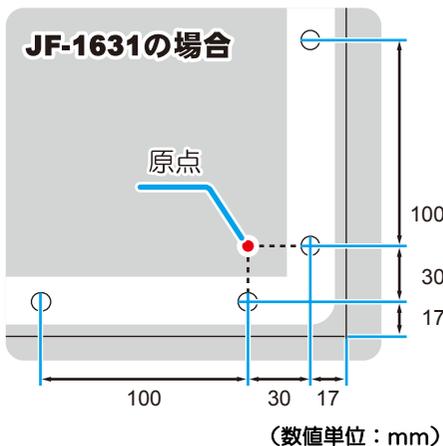
メディアをセットするためのガイドをご用意する際、下記の寸法をご参考ください。



JF-1610の場合



JF-1631の場合



- ガイド穴には、M5 のネジを差し込めます。

3

便利な使い方

第4章

日常のお手入れ



この章では ...

インクの交換方法やクリーニングなど、本装置を快適にお使いいただくために必要な項目を説明します。

日常のお手入れ.....	4-2	画質不良が解消されない場合は.....	4-20
長期間使用しない場合は.....	4-2	インクの充填を行う.....	4-20
お手入れ上のご注意.....	4-2	白インク(ホワイト)の定期メンテ	
テーブル、外装のお手入れ.....	4-3	ナンス.....	4-22
インクカートリッジについて.....	4-4	ヘッドメンテナンス機能.....	4-24
新しいインクカートリッジに		特色リフレッシュ.....	4-25
交換する.....	4-4	ワイパとキャップのクリーニング... ..	4-26
カートリッジ異常が発生したら.....	4-5	温水装置の水を交換する.....	4-29
フラッシングBOXのクリーニング... ..	4-6	不凍液混合水の交換方法.....	4-30
フラッシングBOXをクリーニング		排気ブロワを交換する.....	4-34
する.....	4-6	UVランプの消灯時間を設定する... ..	4-36
作図中のインク滴のボタ落ちを防ぐ.. ..	4-8	UVランプフィルタを清掃する.....	4-37
ヘッドガードプレートのクリー		UVランプを交換する.....	4-40
ニング.....	4-8	UVランプの照射時間を確認する.. ..	4-40
廃インクが溜まったら.....	4-10	UVランプを交換する.....	4-40
廃インクタンクのインクを		UVランプの照射時間をリセット	
処分する.....	4-10	する.....	4-43
ワイパタンクのインクを処分する.. ..	4-11	UV硬化が弱くなったときの	
冷却ファンフィルタを交換する.....	4-12	チェック方法.....	4-44
自動的にノズル面の清掃をする.....	4-14	UV光量の変更.....	4-46
メディアの厚みが変わったら.....	4-15	UV照度の確認方法.....	4-47
インクセットを変更する.....	4-17	UV照度を確認する.....	4-48
インクセットを変更する.....	4-18		

日常のお手入れ

本装置の精度を保ちながら未永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

長期間使用しない場合は



- 必ず装置背面にある主電源スイッチを切ってください。(☞ P.2-16)
- セットしてあるメディアを取り除いてください。

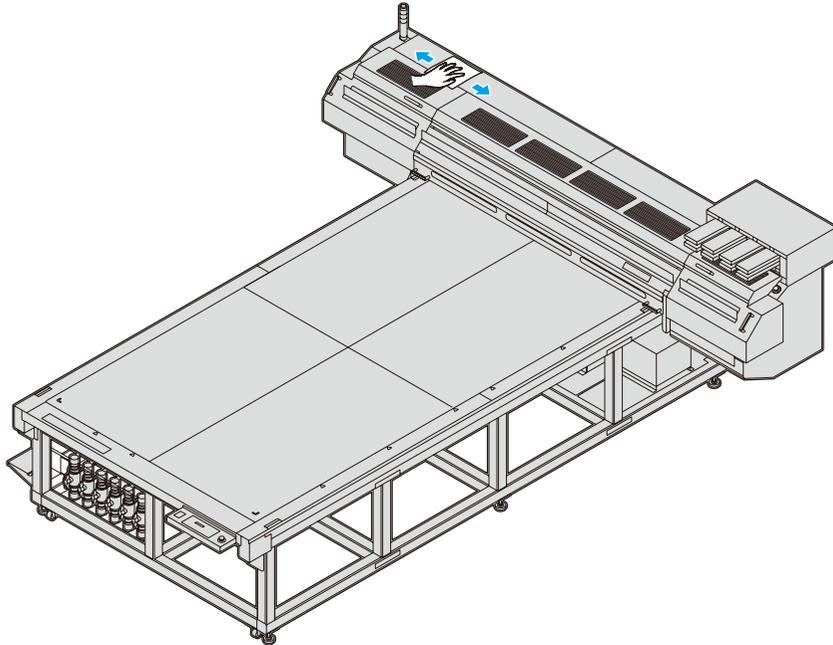
お手入れ上のご注意



- 本装置は、絶対に分解しないでください。感電および破損する原因になります。
- 本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。
- お手入れは、主電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。
- UV ランプの温度が完全に下がってから、お手入れを行ってください。火傷をする危険性があります。
- ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
- 本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。プリンタ内部が故障する恐れがあります。

テーブル、外装のお手入れ

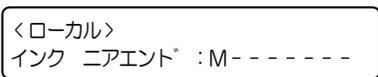
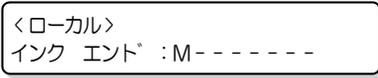
本体の外装が汚れた場合は、柔らかい布に水または水で薄めた中性洗剤を含ませ、強くしぼってから拭き取ってください。テーブル上のホコリも清掃してください。



インクカートリッジについて

新しいインクカートリッジに交換する

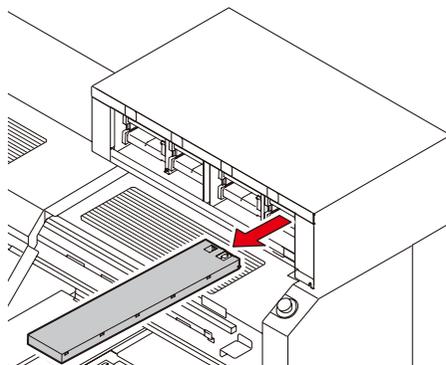
次のようなときに、インクカートリッジを交換してください

ディスプレイ表示	概要
	インクカートリッジ内のインク残量が少なくなっています。 <ul style="list-style-type: none">• 続けて作図できますが、作図中にインクがなくなる場合があります。早めにインクカートリッジの交換をお勧めします。• 左の表示は、マゼンタインクが少なくなっていることを示しています。
	インクカートリッジ内のインクがなくなりました <ul style="list-style-type: none">• 作図できなくなります。速やかに新しいインクカートリッジと交換してください。• 左の表示は、マゼンタインクが無くなっていることを示しています。

インクカートリッジを交換する

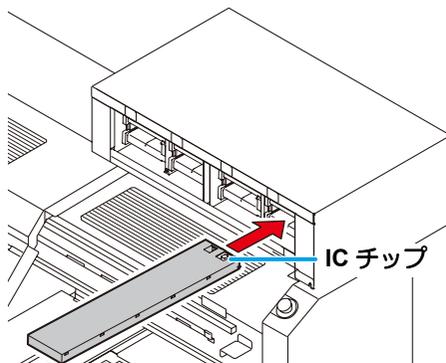
インクカートリッジの交換は、ローカルモードまたは電源を OFF (P.2-16) にしてから行ってください。

1 交換するインクカートリッジを引き抜く



2 新しいインクをセットする

- 図のように、IC チップがあるほうを上にしてセットします。



カートリッジ異常が発生したら

インクカートリッジに異常が発生したら、ディスプレイにメッセージを表示します。作図、クリーニング等、インク吐出に関する動作は全てできなくなります。速やかに新しいインクカートリッジに交換してください。



- カートリッジ異常を表示したまま長時間放置しないでください。ノズル詰まりの原因になります。ノズルが詰まった場合、サービスマンによる修理が必要になります。

1

カートリッジ異常の詳細を表示する

<ローカル>
インク カラー : MCYKKYCM

- カートリッジ異常の内容を確認することができます。詳細は、P.5-1「第5章 困ったときは」のメッセージを表示するトラブルを参照してください。

2

ローカルモードで、 **ENTER** キーを押す

<ローカル> KCMY cmW-
ザ ノリョウ 9999999-

3

ENTER キーを押す

- インクカートリッジに異常がなければローカルモードに戻ります。
- 複数のカートリッジ異常が発生している場合、再度 **ENTER** キーを押すと表示されます。
- **ENTER** キーを押し、すべてのカートリッジ異常の表示が終わると、ローカルモードに戻ります。

<ローカル>
カートリッジ ナシ : MCYKKYCM

<ローカル>
インク ニアエント* : MCYKKYCM

<ローカル>
インク エント* : MCYKKYCM

<ローカル>
インク キゲ* ンギ* レ : MCYKKYCM

<ローカル>
ビジ* ユンセイ : MCYKKYCM

4

日常のお手入れ

フラッシング BOX のクリーニング

フラッシング BOX 内の廃インク吸収材を交換します。

クリーニングに必要なもの	• メンテナンス用洗浄液 (SPC-0385)		
	• 手袋	• 紙タオル	• ゴーグル



• 交換をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。



• 廃インク吸収材は 1ヶ月に 1回交換してください。廃インク吸収材が吸収量を超えると、インクが溢れることがあります。

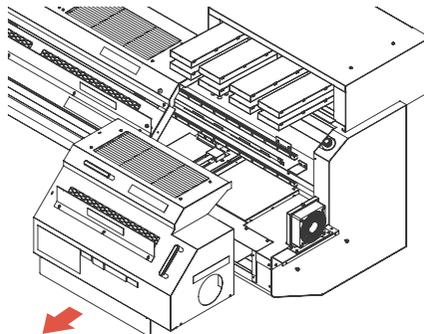
フラッシング BOX をクリーニングする

1

電源を入れる

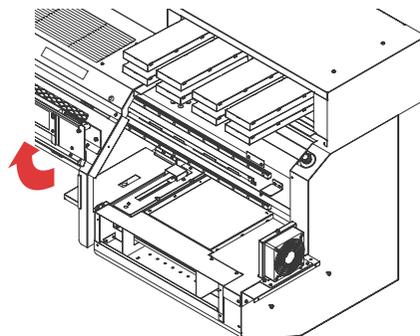
2

Yバー右側のカバーを外す



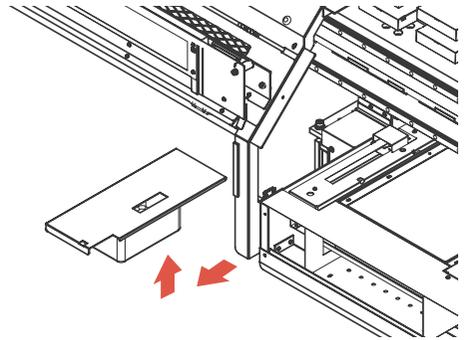
3

フロントカバーを開ける



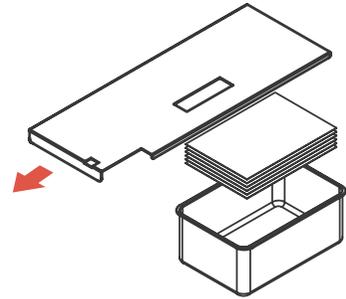
4

右側のフラッシングBOX を取り外す



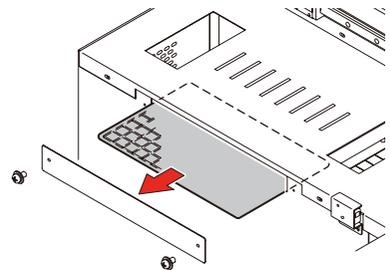
5

フラッシングBOX 内部の吸収材を交換する



6

左側のフラッシングBOX 内部にある吸収材を交換する



4

日常のお手入れ

作図中のインク滴のボタ落ちを防ぐ

ヘッドガードプレートのクリーニング

キャリッジ下面には、作図中のミストによるインク滴が発生することがあります。インク滴のボタ落ちによりメディアが汚れたり、作図不良の原因となりますので、頻繁にキャリッジ下面を清掃してください。

クリーニングに必要なもの	•メンテナンス用洗浄液 (SPC-0385)		
	•清掃棒 (SPC-0384)	•手袋	•メガネ

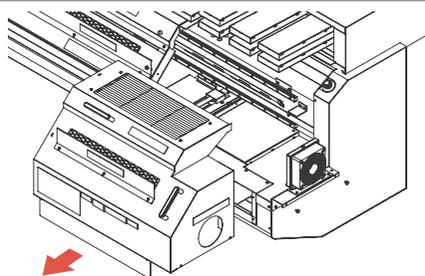
1

電源を入れる

- 初期動作後、ローカルモードになります。

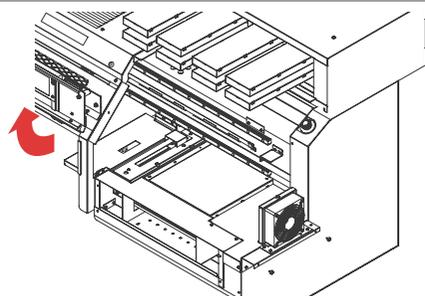
2

Yバー右側のカバーを外す



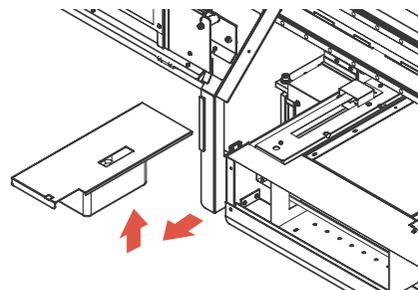
3

フロントカバーを開ける



4

右側のフラッシングBOXを取り外す



5

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビユー <ENT>

6 ▲▼ を押して [メンテナンス] を選ぶ

FUNCTION
 メンテナンス <ENT>

7 ENTER キーを押す

メンテナンス
 ステーション メンテ <ent>

8 ENTER キーを押す

ステーション メンテ
 メンテ : キャリッジ アウト

9 ENTER キーを押す

- ・ キャリッジが待機位置から右側のフラッシング BOX 付近へ、自動的に移動します。
- ・ 移動が完了すると、手動でキャリッジの移動ができるようになります。

10 手動でキャリッジを右側のフラッシング BOX があつた場所へ移動させる

11 清掃棒に洗浄液をしみこませ、ヘッドの側面を清掃する

- ・ ヘッドのノズル面は拭かないでください。ノズル詰まりの原因となります。
- ・ 専用の清掃棒をお求めの際は、販売店または弊社営業所までお問い合わせください。



12 清掃が終了したら、ENTER キーを押す

- ・ 初期動作を実行します。

13 END キーを 2 回押して、ローカルモードにする

廃インクが溜まったら

ヘッドクリーニングなどで使用したインクは、廃インクタンクとワイパタンクに溜まります。



- 予備の廃インクタンクをお求めの場合は、お近くの販売店または弊社営業所までお問い合わせください。
- 廃インクを移すポリエチレンタンクをご用意ください。



- ヘッドクリーニング中などのインク排出中の場合は、排出が終了してから作業を行ってください。
- 廃インクタンクを取り扱うときは、タンクの口をティッシュで押さえるなどして、廃インクが飛ばないようにご注意ください。

- 廃インクがタンクに一杯になると、右のエラーを表示します。

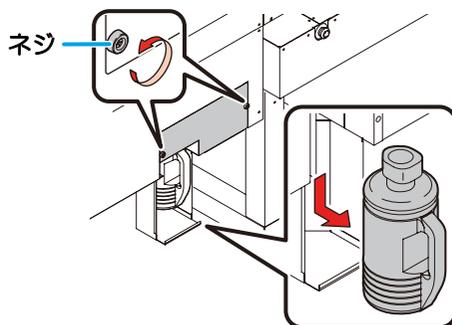
ERROR 604
!ハイインクタンク FULL

廃インクタンクのインクを処分する

1

廃インクボックスカバーを開ける

- カバーの両脇をとめているネジを外してから開けてください。



2

廃インクタンクを下げながら、手前に引き出す

3

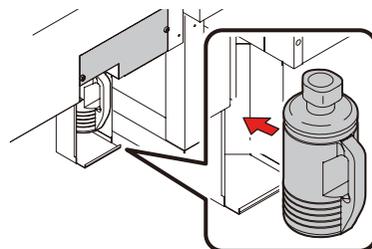
廃インクを別のポリエチレンタンクに移す

- 下に紙を敷いてから廃インクを移してください。(インクで床を汚さないように)
- 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。

4

空にした廃インクタンクをセットする

- 廃インクボックスカバーを締めます。
- 空の廃インクタンクを入れる場合、ケースの角で指などのけががないように注意して入れてください。

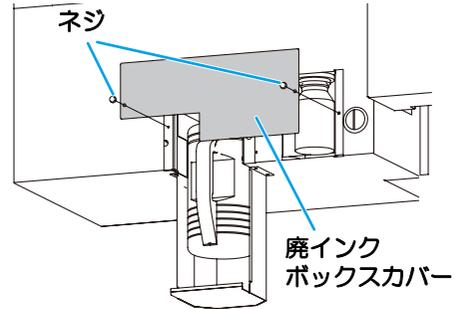


ワイパタンクのインクを処分する

1

廃インクボックスカバーを開ける

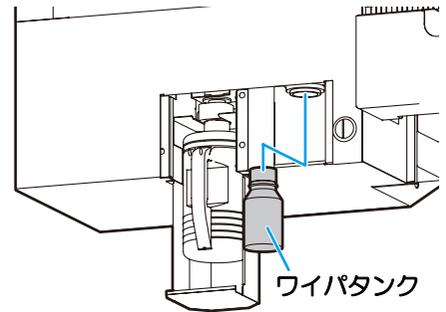
- (1) 廃インクボックスカバーの両側を止めているネジを外す
- (2) カバーを開ける



2

ワイパタンクを外し、
廃インクを廃棄する

- 廃インクは、使用している地域の条例に従って処分してください。



3

ワイパタンクを戻し、廃インクボックスカバーを取り付ける

4

日常のお手入れ

冷却ファンフィルタを交換する

冷却ファンフィルタは、定期的に交換してください。(1ヶ月に1回程度)



- 交換をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。

交換に必要なもの	• アルコール	• 手袋	• 紙タオル
	• ゴーグル	• プラスドライバー	• フィルタエレメント*1

*1. 添付のフィルタエレメントは、24 枚入りです。
フィルタエレメント（品番：SPC-0528）のご購入は販売店または弊社営業所にお申し付けください。

1

電源ボタンを押して、電源を切る

2

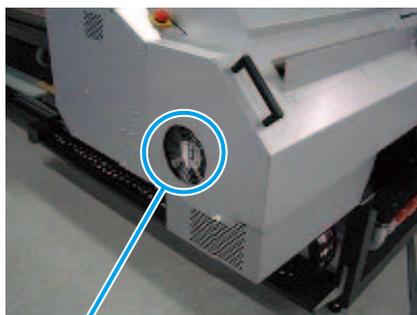
本体背面の主電源スイッチを切る

- 必ず、UV ランプの消灯を確認してから、主電源を切ってください。

3

Yバー正面レフト（ライト）カバーを取り外す

- カバーについているツマミネジ（4 個）を外し、カバーを取り外します。



左側冷却ファン

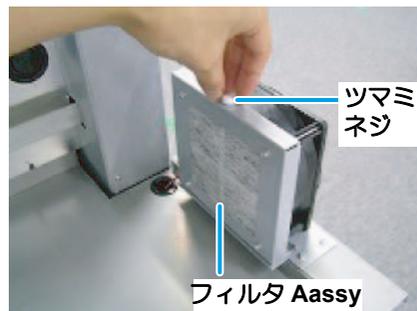


右側冷却ファン

4

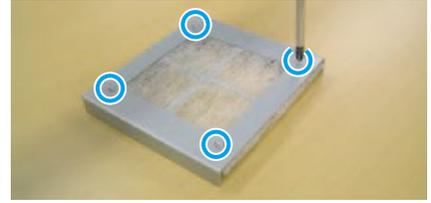
フィルタ Assy を取り外す

- 冷却ファン上部のツマミネジを外し、フィルタ Assy を取り外します。



5

フィルタ Assy のネジ (4ヶ所) を外す。



6

フィルタエレメントを交換する

- 新しいフィルタエレメントを用意し、交換します。



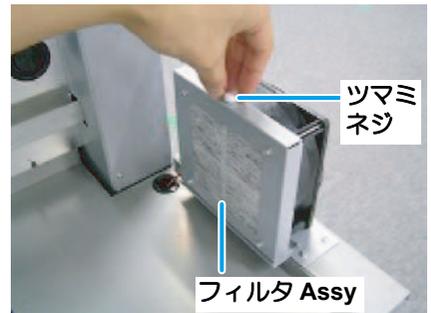
フィルタエレメント

7

フィルタ Assy を元の状態に戻す

8

冷却ファンにフィルタ Assy を取り付け、上部のネジを締める



9

Yバー正面レフト (ライト) カバーを取り付ける

4

日常のお手入れ

自動的にノズル面の清掃をする

設定した回数の印刷が終了すると、自動的にヘッドのノズル面の清掃を行い、ノズル面に付着したインク滴を取り除きます。

1

メンテナンスメニューの“定期ワイピングモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[テキワイピング] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押してスキャン回数 (OFF、1 ~ 255) を設定する

```
テキ ワイピ ング  
スキャン カイスウ = 10
```

- “OFF” にすると、定期ワイピングを行いません。

3

ENTER キーを押す

```
メンテナンス  
テキ ワイピ ング <ent>
```

4

終了するとき、**END** キーを 2 回押す

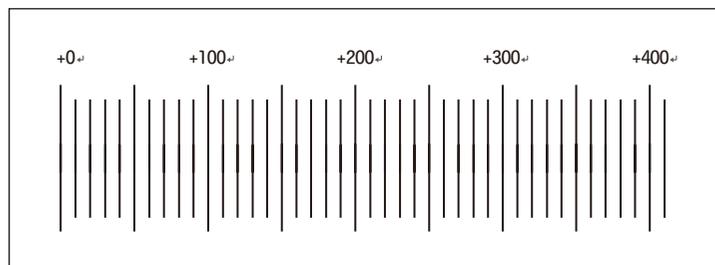
重要!

- UV 照射の設定が “ON” の場合、定期ワイピングを実行する前に自動的に UV ランプが消灯し、ワイピングが終わったら自動的に UV ランプが点灯します。

メディアの厚みが変わったら

ご使用になるメディアの厚みが変わったときは、次の操作をして作図のインク落下点の位置を補正し、適正な作図結果を得られるようにしてください。

パターン作図例



1

メディアをセットし、作図原点を設定する

- パターン作図をするには最低でも 100 × 300 mm の大きさのメディアが必要です。

2

メンテナンスメニューの“ドットイチホセイモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[ドットイチホセイ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

3

▲ **▼** を押して作図時の解像度を選ぶ

ド* ットイチホセイ
DPI : 300

- 設定値 : 300,600,1200 DPI

4

ENTER キーを押す

ド* ットイチホセイ
モード* : ノーマル

5

▲ **▼** を押してパターン作図のスピードを選ぶ

ド* ットイチホセイ
モード* : コウソク

- 設定値 : ノーマル, コウソク

4

日常のお手入れ

6

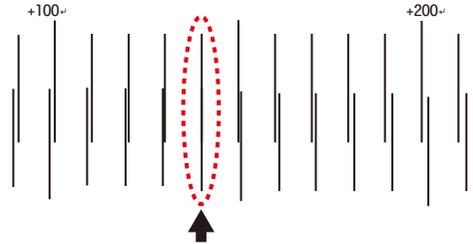
ENTER キーを 2 回押す

- ・ パターン作図を開始します。

7

作図したパターンが1本の直線
になっている位置を確認する

- ・ 右図の場合、+140 で直線になっていることが分かります。



8

▲ ▼ を押して補正する

- ・ 設定値：0～400
- ・ 0～400 の間に直線になっているパターンがない場合
 - (1) 再度、ヘッドギャップの確認 (P.3-6) をする
 - (2) 手順 1 からの操作をする

ト* ットイチホセイ	
300dpi ノーマル	0

9

ENTER キーを押す

ト* ットイチホセイ
DPI : 300

10

終了するとき、**END** キーを 3 回押す

インクセットを変更する

本装置の標準インクセットは4色（マゼンタ、シアン、イエロー、ブラック）になっています。お客様のご使用に合わせて、以下のインクセットに変更することができます。

インクセットの種類

色数	インクスロット番号							
	1	2	3	4	5	6	7	8
4色	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	K (ブラック)	Y (イエロー)	C (シアン)	M (マゼンタ)
	K (ブラック)	Y (イエロー)	C (シアン)	M (マゼンタ)	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)
6色	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	m (ライトマゼンタ)	c (ライトシアン)	—	—
7色	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	m (ライトマゼンタ)	c (ライトシアン)	W (ホワイト)	—
	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	m (ライトマゼンタ)	c (ライトシアン)	S (特色1)	—
	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	m (ライトマゼンタ)	c (ライトシアン)	Cl (クリアコート)	—
8色	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	m (ライトマゼンタ)	c (ライトシアン)	W (ホワイト)	S (特色1)
	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	m (ライトマゼンタ)	c (ライトシアン)	S (特色1)	s (特色2)
	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	m (ライトマゼンタ)	c (ライトシアン)	W (ホワイト)	Cl (クリアコート)
	M (マゼンタ)	C (シアン)	Y (イエロー)	K (ブラック)	m (ライトマゼンタ)	c (ライトシアン)	Cl (クリアコート)	Cl (クリアコート)



- インクセットの変更には、洗浄カートリッジ（SPC-0371FS）が必要です。



- インクセット中に、電源をオフにしないでください。正常にインクセットの変更ができなくなります。
- 充填するインクカートリッジは、インクが十分に入っているものをセットしてください。インクが十分に入っていない場合は、正常にインクセットの変更ができなくなります。
- 廃インクタンク内の容量を確認してください。廃インクの量が多い場合は、廃インクを捨ててください。（P.4-10）

インクセット変更の流れ

メンテナンスメニューの
“インクセット”を選ぶ



ディスプレイの表示に従って操作する

- 本装置が現在セットされているインクを確認し、インクカートリッジの抜き差しや、洗浄カートリッジなどのセットをディスプレイに表示します。ディスプレイのガイドに従って操作をしてください。

インクセットを変更する

インクセットの変更方法を説明します。

例) : “4色インクセット” から “6色インクセット” へ変更する場合

1

メンテナンスメニューの“インクセットモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[インクセット] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押して変更するインクセットを選ぶ

(例 : 6色インクセット)

インクセット

[MCYKKYCM]

- ・インクセットを選ぶときは P.4-17 「インクセットの種類」を参照してください。
- ・ライトシアン (Lc)、ライトマゼンタ (Lm) はそれぞれ「c」「m」と表示されます。

3

ENTER キーを押す

インクセット

セツテイ シマスカ? : ent

4

ENTER キーを押す

インクセット : ****KYCM

カートリッジ ヲ ハス ス

5

表示されているインクカートリッジを取り外す

センジ ヨウ チュウ

シバ ラク オマチクダ サイ

6

洗浄カートリッジをセットする

- ・ヘッド内部と配管内部の洗浄が始まります。
- ・洗浄が終わると右の画面が表示されます。

インクセット : ****KYCM

センジ ヨウジ グ ヲ セット

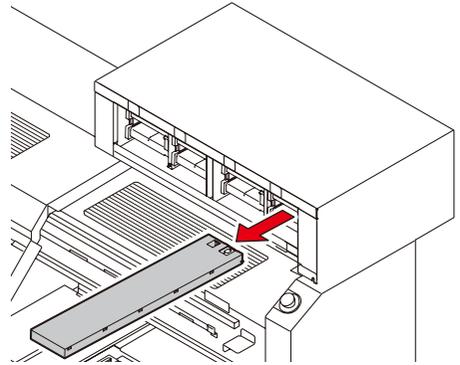


インクセット : ****KYCM

センジ ヨウジ グ ヲ ハス ス

7

洗浄カートリッジを取り外す



8

右の画面が表示されたら、表示されている色のカートリッジをセットする

インクセット: ****mc**
カートリッジ ヲ セット

9

ENTER キーを押す

- インクの充填が始まります。
- 充填が終わるとローカルモードに戻ります。

4

日常のお手入れ

画質不良が解消されない場合は

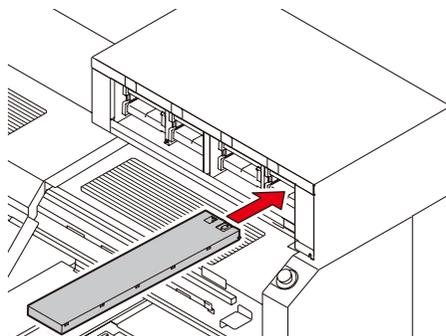
ヘッドクリーニングを繰り返しても作図不良が改善されない場合は、インクの充填を行ってください。

インクの充填を行う

1

インクステーションにインクカートリッジを差し込む

- ・インクカートリッジは確実にセットしてください。



2

ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す

FUNCTION
ビユー <ENT>

3

▲ **▼** を押して、[メンテナンス] を選択する

FUNCTION
メンテナンス <ENT>

4

ENTER キーを押す

メンテナンス
ステーション メンテ <ent>

5

▲ **▼** を押して、[インク
ジュウテン] を選択する

メンテナンス
インクジ ユウテン <ent>

6

ENTER キーを押す

インクジ ユウテン
ヘッド [M]CYKKYCM]

7

ヘッドごとに、インクの充填
を選ぶ

- (1)   でカーソルを移動させる
 (2)   でインクの充填を選ぶ
 ・ 全てのヘッドに対して、インクの
 充填を選択してください。
 充填する : セットされているインクカートリッジを表示
 充填しない : “*” を表示

インクジ ユウテン
 ヘッド [MCYKKYCM]

インクジ ユウテン
 ヘッド [MC*KKYYCM]

8

 キーを押す

インクジ ユウテン
 ジ ユウテン カイシ :ent

9

 キーを押す

- ・ インク充填を開始します。
- ・ インク充填が終了すると、右の画面
 を表示します。 キーを2回押
 すと、ローカルモードに戻ります。

ジ ユウテン チュウ
 *-----

メンテナンス
 インクジ ユウテン <ent>



- ・ インクを交換する場合は、 P.4-4 をご覧ください。

白インク (ホワイト) の定期メンテナンス

白インク (ホワイト) は他のインクに比べて沈殿しやすい性質があります。

- 本装置を 2 週間以上使用しない場合、プリンタ内部またはカートリッジ内部で沈殿してしまう場合があります。
- インクが沈殿すると、作図時にノズル詰まりを発生し、正常な作図ができなくなります。
- 作図時のノズル詰まりの防止と白インクの状態を良好に保つため、下記の定期的メンテナンスを行ってください。



- 一週間に一度必ず、下の操作をしてください。
- インクカートリッジは、弊社推奨のインクカートリッジをご使用ください。



- 本機能は、インクセットに白インク (ホワイト) が含まれている場合のみお使いになれます。

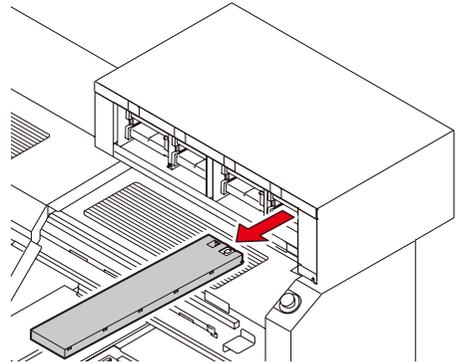
1

メンテナンスメニューの“ホワイトメンテナンスモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[ホワイトメンテナンス] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを 2 回押す
 - ディスプレイに [カートリッジ ヲハズス] が表示されます。

2

白インクカートリッジをインクステーションから抜く



3

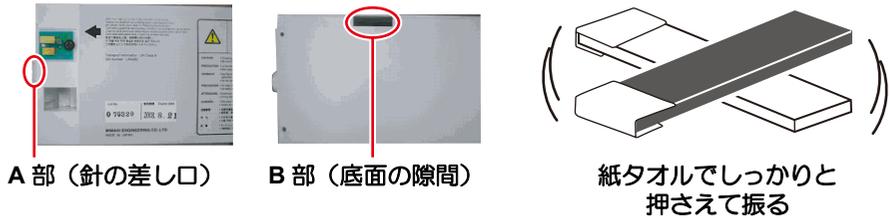
ENTER キーを押す

- 白インクの排出作業を行います。

** ハイシュツチュウ **
シバ ラク オマチクダ サイ

4

白インクカートリッジを 10 回程度ゆっくりと上下に振る



A 部 (針の差し口)

B 部 (底面の隙間)

紙タオルでしっかりと
押さえて振る

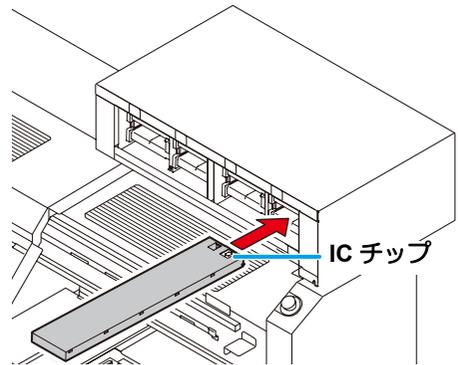
- 振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、紙タオルなどで、カートリッジ上面の A 部とカートリッジ底面の B 部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを上下させます。

5

次の画面が表示されたら、白インクカートリッジをインクステーションに戻す

ホワイトメンテナンス
カートリッジ 3 セット

- 図のように、IC チップがあるほうを上にしてセットします。



6

ENTER キーを押す

- インク充填を開始します。
- 白インク充填終了後に、右記表示になります。

** ジュウテンチュウ **
シバ ラク オマチクダ サイ

メンテナンス
ホワイト メンテナンス <ent>

7

終了するとき、**END** キーを 2 回押す

ヘッドメンテナンス機能

ヘッドメンテナンス機能を使うと、本装置の電源をオンにしたとき、メディア汚れを防止するためのヘッドクリーニングとワイピングを自動的に行います。



- 電源をオンにした後、ヘッドが設定温度になってからクリーニング/ワイピング動作を行います。
- ヘッドメンテナンスで行うクリーニングとワイピングは、メディア汚れの防止を目的としているため、ごく少量になります。
- クリーニング/ワイピング動作が終了するまでは、本装置を動作させることはできません。

1

メンテナンスメニューの“ヘッドメンテナンスモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[ヘッドメンテナンス] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

ヘッドごとに、メンテナンス機能の実行/解除を選ぶ

ヘッド*	メンテナンス
ヘッド*	: KCMY cmWS

- (1) **◀** **▶** を押してヘッドを選ぶ
- (2) **▲** **▼** を押して、メンテナンス機能の実行/解除を選ぶ

- ヘッドメンテナンス機能を解除すると、ディスプレイには“*”を表示します。
- ヘッドメンテナンス機能をご利用になりたくないときは、すべてのヘッドで解除を選択してください。

3

ENTER キーを押す

4

終了するとき、**END** キーを2回押す

特色リフレッシュ

作図したデータに作図不良（カスレや抜け）があるなどで、頻繁にリフレッシュをしたい場合、下の操作をして頻繁にリフレッシュするヘッドを設定してください。

1

メンテナンスメニューの“トクショクリフレッシュモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[トクショクリフレッシュ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押して、ヘッドを選ぶ

- ・ 頻繁にリフレッシュしたいヘッドを選択します。

3

ENTER キーを押す

トクショク リフレッシュ
カラー : _____ W_

4

終了するとき、**END** キーを 2 回押す

4

日常のお手入れ

ワイパとキャップのクリーニング

ワイパは、ヘッドのノズル面に付着したインクを拭き取ります。
キャップは、ヘッドのノズルが乾燥して目詰まりするのを防止します。
本装置を使用しているとインクやホコリ等でワイパやキャップが汚れてきます。
ヘッドの状態を良好に保つために、ワイパとキャップは頻繁に清掃してください。

重要!

- ワイパは、消耗品です。ワイパの清掃後にヘッドクリーニングを繰り返しても作図状態が改善されない場合は、付属の交換用ワイパと交換してください。
(交換用ワイパ：SPC-0515 [30ヶ入])



- 清掃をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。

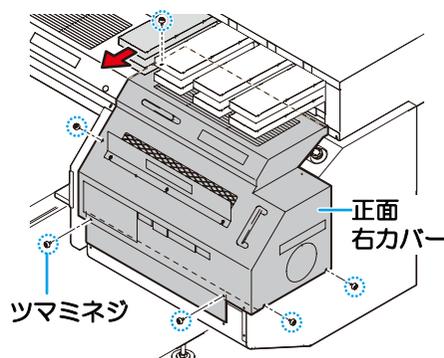
1

電源を入れる

2

正面右カバーを取り外す

- インクスロットのNo.1とNo.8を取り外す
- ツマミネジ (6箇所) を外し、正面右カバーを取り外す



3

メンテナンスメニューの“ステーションメンテ”を選ぶ

- ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- ▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- ▲** **▼** を押して、[ステーションメンテ] を選ぶ
- ENTER** キーを押す

4

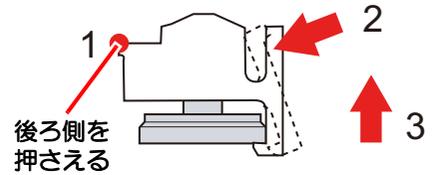
ENTER キーを押す

- キャリッジが右側のフラッシング BOX 付近へ移動します。
- ワイパが手前に移動し、キャップのシャッターが開きます。

5

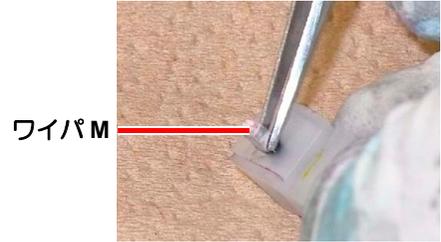
吸引ノズル Assy を取り外す

- (1) 吸引ノズル Assy の後ろ側を押さえ
- (2) 手前の突起を後ろに押し込みながら
- (3) 上に引き上げる



6

ピンセットでワイパ M を取り外す



7

ワイパ M に洗浄液を数滴たらし、不織布で清掃する

- ・ 紙タオルなど、ホコリや繊維が残ってしまうものは使用しないでください。
- ・ ワイパ M に著しい変形や摩耗が見られる場合は、新しいものに交換してください。



8

吸引ノズルの内側を確認し、汚れている場合は清掃する

- (1) 硬化したインクや付着している汚れを、先の細い棒で取り除く
- (2) スポイトを使って吸引ノズルの内側に洗浄液を数滴たらし、不織布で清掃する



9

吸引ノズル下の O リング周辺を確認し、汚れている場合は清掃する

- ・ O リング周辺には、未硬化のインクが付着しています。不織布で清掃してください。



4

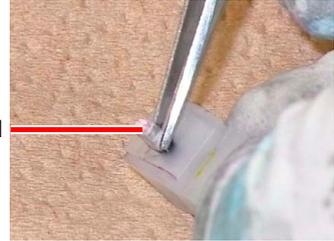
日常のお手入れ

10

ワイパ M を吸引ノズルに取り付ける

- ワイパ M と吸引ノズルの高さが合うようにしてください。

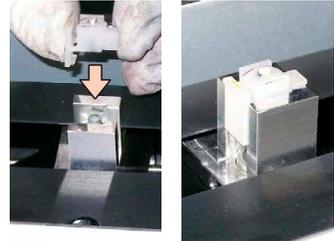
ワイパ M



11

吸引ノズル Assy を吸引ノズル下に強く押しつけるようにして取り付ける

- 取り付け後は、ワイパ M が 0.5mm 程度上にはみ出します。



12

キャップに付着しているインク等を不織布で拭き取る

- 紙タオルなど、ホコリや繊維が残ってしまうものは使用しないでください。



13

清掃が終了したら、**ENTER** キーを押す

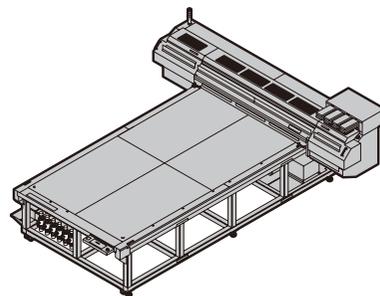
- 初期動作を実行します。

14

終了するとき、**END** キーを 3 回押す

温水装置の水を交換する

インクの状態を適温に保つため、温水装置を稼働させます。温水装置内の温水タンクに、不凍液と水をいれます。1ヶ月に一回、必ず確認してください。



交換に関する注意



- 水のつぎだしはできません。
- 水と不凍液の混合液の割合は、水 2 に対して不凍液 1 にしてください。
- 不凍液を入れず、水だけを温水タンクに入れた場合は、凍結などによりヘッドが故障する原因になります。
- 水を入れず、不凍液だけを温水タンクに入れた場合、温水の温度が上がらず、エラーになることがあります。
- 温水装置に必要な水量、温水タンク内の汚れを確認するために1ヶ月に一回、温水装置の確認をしてください。
- 温水タンクの水不足が頻繁に起きる場合は、販売店または弊社営業所までサービスコールしてください。
- 不凍液と混ぜた水は、使用している地域の条例に従って処分してください。



不凍液の取り扱い上のご注意



- 不凍液を取り扱う場合は、必ず付属のゴーグルおよび手袋を着用してください。



- 不凍液は、弊社専用の不凍液をご使用ください。温水装置が故障する恐れがあります。(交換用不凍液：SPC-0394 [1000cc X 2 本])
- 不凍液には直接ふれないようにしてください。誤って不凍液を付けてしまったときは、石けんを使って、すぐに流水で洗い落としてください。万一、不凍液が目に入ったときは、大量の流水で洗い、医師に相談してください。
- 不凍液は冷暗所で保存してください。
- 不凍液は、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 不用となった不凍液は、産業廃棄物処理業者に内容物を明確にして処理を委託してください。
- 不凍液をご使用の前に、必ず製品安全性データシート (MSDS) をお読みください。



- 予備の温水タンクをお求めの場合は、お近くの販売店または弊社営業所までお問い合わせください。
- 廃温水タンク水を移すポリエチレンタンクをご用意ください。
- 温水タンクの水が不足すると、次のエラーを表示します。エラーを表示した場合は、下記の手順と同様に、水を交換してください。

ERROR 705
ミス フソク

不凍液混合水の交換方法

不凍液混合水の交換方法には、次の2通りの方法があります。

メンテナンスメニューの温水交換モードを使って交換する (P.4-33 ページ下部)	配管内部の不凍液混合水も完全に排出できます。また、温水装置が完全に冷却してから作業できるので安全です。 ただし、温水装置の冷却に20～30分の時間がかかります。
電源がOFFにし、青色のソケットを外してから交換する (P.4-33)	温水の冷却時間がないため、短時間で交換作業ができますが、配管内部の不凍液混合水は交換できません。 また、本装置に電源がしばらくの間入っていた場合、電源をOFFにしても、すぐに温水タンクの温度は下がりにません。 温水タンクが高温になっていると、火傷の危険があります。

温水交換モードを使って交換する

1

メンテナンスメニューの“温水交換モード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[オンスイコウカン] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

ENTER キーを押す

- ・不凍液の冷却を始めます。
- ・冷却には、20～30分の時間がかかります。

オンスイコウカン
レイキャク チュウ

3

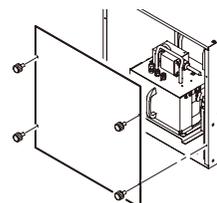
[オンスイハイキ]が表示されたら、**ENTER** キーを押す

オンスイコウカン
オンスイ ハイキ : ent

4

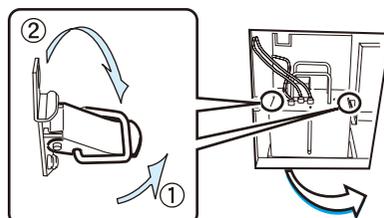
本体背面の温水装置カバーを取り除く

- ・温水装置カバー両脇(4箇所)をとめているネジを外してから開けてください。



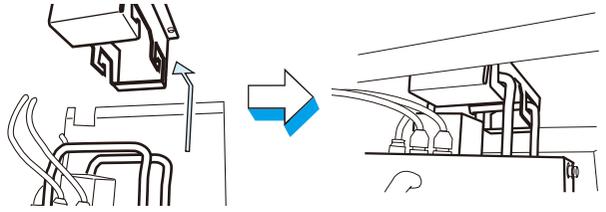
5

キャッチクリップをはずす



6

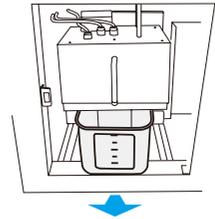
温水装置を持ち上げ、ハンガーをフックにかける



7

温水タンクを取り出す

- 残っている不凍液を別のポリエチレンタンクに移します。
- 不凍液をこぼさないようにご注意ください。こぼれてしまったときは、すぐに拭き取ってください。



8

空のタンクを装置にセットし、温水装置とキャッチクリップを元の状態に戻す

9

ENTER キーを押す

- 装置内に残っている不凍液の排出を開始します。
- 排出が完了すると、右の表示になります。

オンスイコウカン
タンク セット :ent

オンスイコウカン
オンスイ ハイキ :ent

10

再度、温水タンクを取り出す

- 手順 3～6 を参照して、取り出してください。

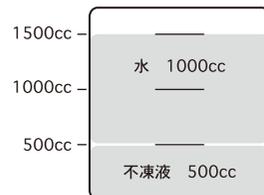
11

タンクの中の不凍液を手順 3 で使ったポリエチレンタンクに入れ、温水タンクを洗浄する

- 中性洗剤でタンクを洗った場合は、よく水でタンクをゆすいでください。

12

温水タンクに新しい不凍液と水を入れる



4

日常のお手入れ

13

温水タンクを元の状態に戻す

- (1) 温水タンクを装置に取り付ける
- (2) 温水装置カバーをかぶせる
- (3) クリップをセットする
- (4) 温水装置カバーを閉じる

14

ENTER キーを押す

オンスイコウカン フトウエキ セット	:ent
-----------------------	------

15

終了するとき、**END** キーを 2 回押す

電源が OFF になっているときに交換する

1

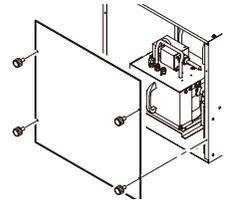
電源が OFF になっていることを確認し、青色の電源ソケットを取り外す



2

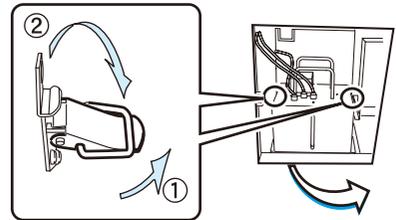
本体背面の温水装置カバーを取り除く

- 温水装置カバー両脇(4箇所)をとめているネジを外してから開けてください。



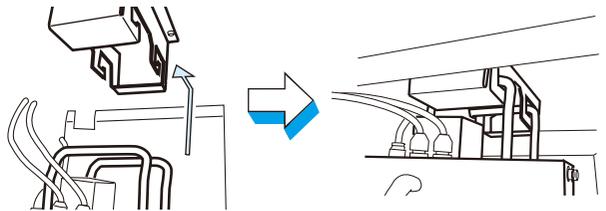
3

キャッチクリップをはずす



4

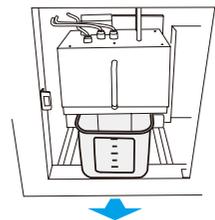
温水装置を持ち上げ、ハンガーをフックにかける



5

温水タンクを取り出す

- 残っている不凍液を別のポリエチレンタンクに移します。
- 不凍液をこぼさないようにご注意ください。こぼれてしまったときは、すぐに拭き取ってください。



6

空のタンクを装置にセットし、温水装置とキャッチクリップを元の状態に戻す

4

日常のお手入れ

排気ブロワを交換する

排気ブロワを使って、作図時に発生する熱を放出させます。
そのときに吸い込んだインクミストが固まり、排気ブロワが正常に動作しなくなります。
次のようなときは、排気ブロワを交換してください。

排気ブロワが正常に動作しなくなると

→ディスプレイに“ERROR706 UV1 オーバーヒート”が頻繁に表示する

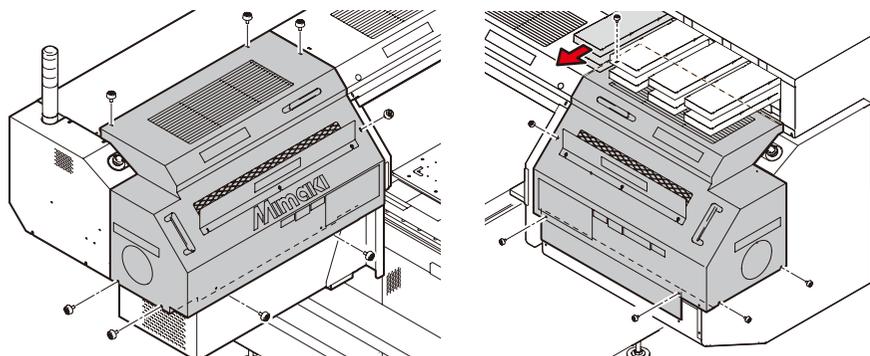
交換に必要な工具	・プラスドライバー
----------	-----------

1

UV ランプを消灯し、電源を OFF にする

2

正面右カバーと正面左カバーを取り外す



3

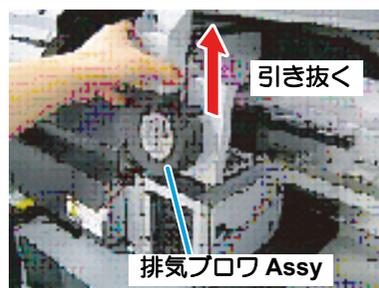
排気ブロワ接続ケーブルの
コネクタを外す



4

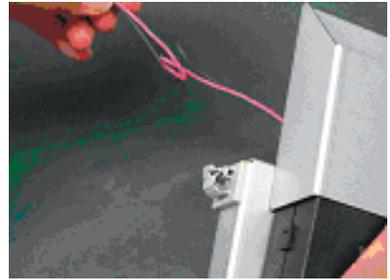
排気ブロワ Assy を上に
引き抜く

- ・排気ブロワ Assy 上部についているツマミネジを取り外してから、引き抜きます。



5

排気ブロワ接続ケーブルを
クランプから外す



6

排気ブロワを取り外す

- ネジ（2箇所）を外して、排気ブロワを取り外します。



7

新しい排気ブロワを
取り付け

- ネジ（2箇所）を締めて、排気ブロワを固定します。



8

排気ブロワ Assy を元の状態に戻す

- (1) 排気ブロワ接続ケーブルをクランプに止める
- (2) 排気ブロワ Assy をセットする
- (3) 排気ブロワ接続ケーブルのコネクタを取り付ける

9

正面右カバーと正面左カバーを閉める

4

日常のお手入れ

UV ランプの消灯時間を設定する

1

メンテナンスメニューの“UV ランプモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[UV ランプ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押し、
[ショウトウジカン] を選ぶ

UVランプ
ショウトウ ジ カン <ent>

3

ENTER キーを押す

ショウトウ ジ カン
レンジ ク ショウシャ :ON

4

▲ **▼** を押し、
設定値を選ぶ

ショウトウ ジ カン
レンジ ク ショウシャ :OFF

- OFF：設定した時間に自動的に UV ランプを消灯します。（初期値：30 分）
- ON：常時、UV ランプが点灯した状態になります。
UV ランプを消灯したいときは、P.3-8 の操作をしてください。
- “OFF” を選んだ場合は手順 5 へ、“ON” を選んだ場合は手順 8 へ進みます。

5

ENTER キーを押す

ショウトウ ジ カン
TIME: **h**m

6

作図終了後、UV ランプを消灯
するまでの時間を設定する

ショウトウ ジ カン
TIME: 01h00m

- 消灯時間は、時・分で設定できます。（最大 23 h 59 m 後に消灯）
- (1) **▲** **▼** を押して、時間（0～23 h）を入れる
 - (2) **▶** を押して、分の設定に移動する
 - (3) **▲** **▼** を押して、分（0～59 m）を入れる

7

ENTER キーを押す

UVランプ
ショウトウ ジ カン <ent>

8

終了するとき、**END** キーを 3 回押す

UV ランプフィルタを清掃する

本装置を末永くご利用いただくために、定期的（2週間に1回程度）に UV ランプフィルタの清掃を行ってください。



- 清掃をする場合は、必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。インクが目に入る場合があります。



- フィルタの清掃を行っていても、UV ランプに関するアラームが頻繁に出るような場合は UV ランプフィルタの交換が必要になります。販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
- フィルタの清掃中にネジを落とすなどした場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

クリーニングに必要なもの	• アルコール		
	• 手袋	• 紙タオル	• ゴーグル

1

UV ランプを消灯し、電源を OFF にする

2

本体背面の主電源スイッチを切る

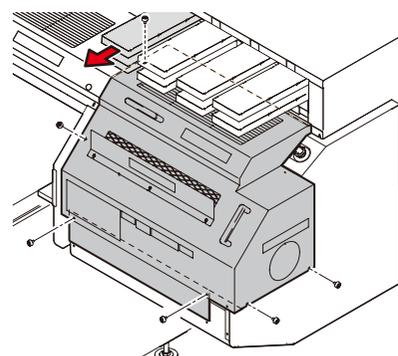
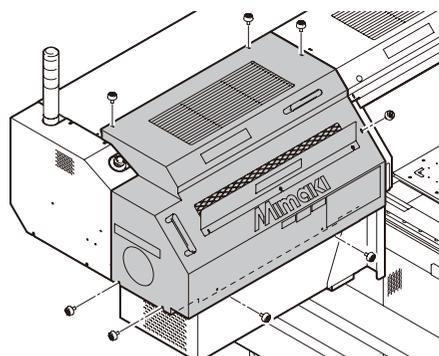
- 必ず、UV ランプの消灯を確認してから、主電源を切ってください。



下側 (O) を押して電源を切る

3

正面右カバーと正面左カバーを取り外す

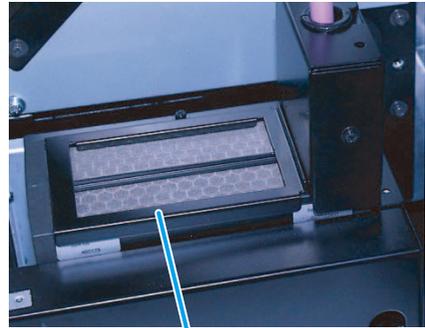


4

日常のお手入れ

4

フィルタ押さえを取り外す

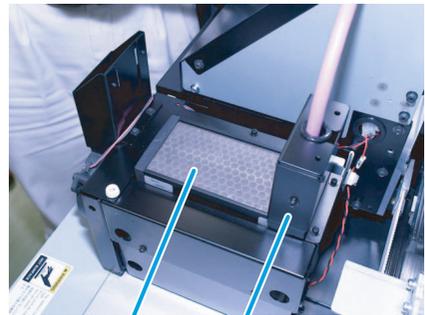


フィルタ押さえ

5

メッシュフィルタを取り外す

- メッシュフィルタは、UV ランプコネクタカバーの下に入り込んでいます。フィルタを引き出すようにして、取り外してください。



メッシュフィルタ UV ランプ
コネクタカバー

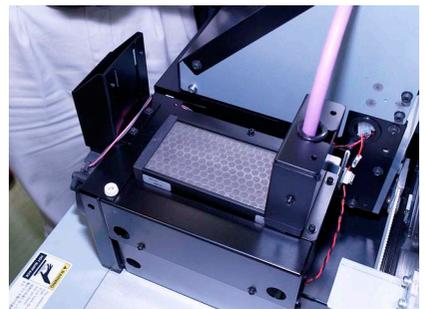
6

メッシュフィルタを清掃する

- 紙タオルを下に敷き、メッシュフィルタの汚れている箇所をアルコールをかけて取り除きます。
- 汚れが落ちにくい場合は、紙タオルにアルコールを含ませ、軽く押さえるようにしてください。(メッシュフィルタをこすらないでください)

7

メッシュフィルタを元の位置に戻す



8

フィルタ押さえを取り付ける



9

正面右カバーと正面左カバーを取り付ける

4

日常のお手入れ

UV ランプを交換する

UV ランプは消耗品です。
本装置は、UV ランプの照射使用時間をカウントし、交換時期をお知らせします。

UV ランプの照射時間を確認する

1

ローカルモードで、
ENTER キーを数回押す

<ローカル>
ショウシャ ジ カン 600, 600

- UV ランプの照射時間は、左側に左側ランプの照射時間、右側に右側ランプの照射時間を表示します。
- **ENTER** キーを押すと、ローカルモードに戻ります。

UV ランプを交換する

一定の照射時間を超えると、右のメッセージを表示します。
メッセージを表示したら、早めにサービスコールして、
新しい UV ランプをご準備ください。

!UVランプ :CH1
UVランプ コウカン :ent

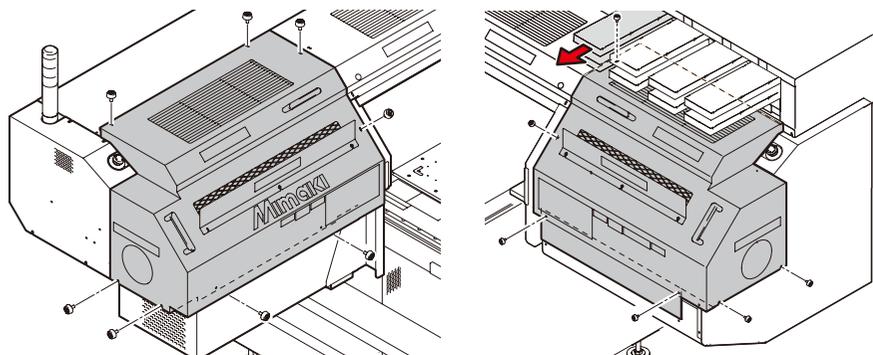
交換に必要な工具 • 六角レンチ対辺3 (付属品)

1

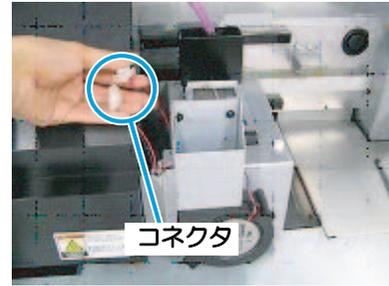
UV ランプを消灯し、電源を OFF にする

2

正面右カバーと正面左カバーを取り外す



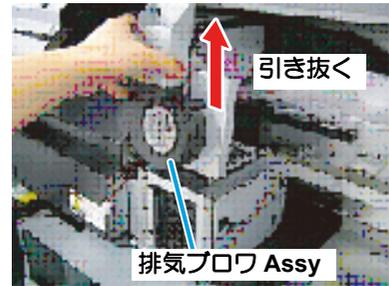
3

排気ブロワ接続ケーブルの
コネクタを外す

4

排気ブロワ Assy を上に
引き抜く

- 排気ブロワ Assy 上部についているツマミネジを取り外してから、引き抜きます。



5

UV ランプカセットを取り外す

- (1) 付属の六角レンチを使用して、UV ランプカセット正面のボルトを取り外す
- (2) UV ランプカセットを引き抜く



6

新しいUV ランプカセットを取
り付ける

- 付属の六角レンチを使用して、UV ランプカセット正面のボルトを取り付けます。



4

日常のお手入れ

7

排気ブロワ Assy を取り付け、
ツマミネジを締める



8

排気ブロワ接続ケーブルのコネクタを接続する

9

正面右カバーと正面左カバーを取り付け、電源を ON にする

- 交換が終わったら、P.4-43「UV ランプの照射時間をリセットする」の操作をしてください。

UV ランプの照射時間をリセットする

UV ランプを交換後、本装置で記憶している照射時間をリセットします。

1

メンテナンスメニューの“UV ランプモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[UV ランプ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押し、
[ショウシャジカン] を選ぶ

UVランプ
ショウシャ ジ カン <ent>

3

ENTER キーを押す

ショウシャ ジ カン
チャンネル : CH1

4

▲ **▼** を押し、
初期化する UV ランプを選ぶ

ショウシャ ジ カン
チャンネル : ALL

- 設定値：CH1、CH2、ALL(両方の UV ランプの照射時間をリセットする)

5

ENTER キーを 2 回押す

- 照射時間をリセットします。
- リセットが終わると、右の表示に戻ります。

UVランプ
ショウシャ ジ カン <ent>

6

終了するとき、**END** キーを 2 回押す

4

日常のお手入れ

UV 硬化が弱くなったときのチェック方法

UV ランプの消耗にともない、インクの硬化が弱くなる場合があります。硬化チェックをすることにより、インクの硬化度をチェックし、UV ランプの光量を変更することができます。

1

テーブルに、作図パターン用としてメディアをセットする

- ・バキュームスイッチをオンにしてください。その後、作図原点を設定します。

2

ローカルモードになっているか確認する

3

TEST キーを押す

テスト サクス^{*}
ノズルチェック <ENT>

4

▲ **▼** を押し、[コウカ
チェック] を選ぶ

テスト サクス^{*}
コウカチェック <ENT>

5

ENTER キーを押す

コウカチェック
DPI : 300X300

6

▲ **▼** を押し、
解像度を選ぶ

コウカチェック
DPI : 1200X1200

- ・設定値 : 300 x 300 dpi、300 x 600 dpi、600 x 600 dpi、600 x 1200 dpi、
900 x 600 dpi、900 x 1200 dpi、1200 x 1200 dpi

7

ENTER キーを押す

コウカチェック
サクス^{*} ヒンシツ : ヒョウジ^{*} ユン

8

▲ **▼** を押し、
作図品質を選ぶ

コウカチェック
サクス^{*} ヒンシツ : キレイ

- ・設定値 : ヒョウジュン、キレイ、ハヤイ

9

ENTER キーを押す

コウカチェック
スキャンホウコウ : ソウホウコウ

10

▲▼を押して、
スキャン方向を選ぶ

コウカチェック
スキャンホウコウ： タンホウコウ

- ・ 設定値： ソウホウコウ、タンホウコウ

11

ENTER キーを押す

** テスト サクス **

- ・ テスト作図を開始します。

12

テスト作図終了後、作図パターンをチェックする

- ・ UV 光量が弱くなっている場合は、良質な作図パターンは得られません。その場合は、P.4-46「UV 光量の変更」の操作をしてください。

重要!

- ・ 手順 9 で、UV 照射器具の準備が完了していない場合、または温水装置の温度が一定温度になっていない場合は、メッセージを表示します。この場合は作図できません。表示が消えると作図ができます。

UV 光量の変更

1

セッテイメニューの“UV コウリョウモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して [セッテイ] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[UV コウリョウ] を選ぶ
- (4) **ENTER** キーを押す

2

▲ **▼** を押し、光量を選ぶ

セッテイ	
UVコウリョウ	: ヒョウジ ユン

- ・ 設定値 : ツヨイ、ヨワイ、ヒョウジュン、ナシ、インサツナシ (光量は「ツヨイ」になる)

3

ENTER キーを押す

セッテイ	
UVコウリョウ	<ent>

4

終了するとき、**END** キーを 2 回押す

5

再度、UV 硬化をチェックする

- ・ メディアをセットし、UV 光量の作図パターンを作成します。(☞ P.4-45)

重要!

UV 光量の度合いを変更しても、変化がない場合は、UV ランプが消耗しています。下記の方法で確認してください。

- ・ UV ランプの照射時間を確認する (☞ P.4-40)
- ・ UV ランプの照度を確認する (☞ P.4-47)
- ・ UV ランプの交換をする (☞ P.4-40)

UV 照度の確認方法

UV ランプは消耗品です。照射時間が増すにつれ光量が低下し、インクが硬化しづらくなります。累積照射時間が一定値を超えると、オペレーションパネルに照度の確認を促すメッセージが表示されます。本書に沿って UV ランプの照度を確認し、UV ランプカセット交換の目安としてください。

照度確認の際の注意



- 必ず付属のゴーグルと手袋を着用してください。
- 肌を UV ランプの光から守るために、長袖を着用してください。

照度確認に必要な器具



照度計



照度計ブラケット (M510110)



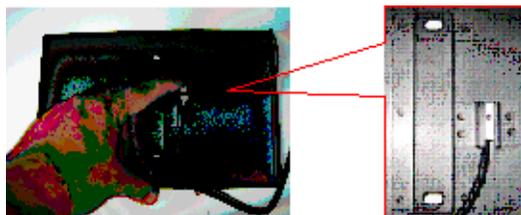
ネジ (B5 x 10 2本)、
プラスドライバ

UV 照度を確認する

1

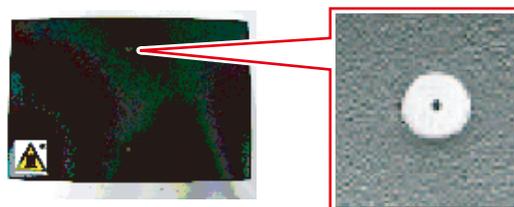
照度計のセンサ部分を照度計ブラケットに取り付ける

- (1) 照度計ブラケットを裏返し、ガイド部分にセンサを差し込む
- ブラケットの表側からセンサ穴が見えるようにセンサ穴を下側に向けてセットしてください。



- (2) コードをガイドの間にはさんでから、センサをコード側にスライドさせる
- 必ずセンサ部を押してください。コードを引っ張らないでください。

- (3) ブラケットを表側にし、ブラケット穴の中心にセンサ穴がくるよう調整する



2

メンテナンスメニューの“UV ランプモード”を選ぶ

- (1) ローカルモードで、**FUNCTION** キーを押す
- (2) **▲** **▼** を押して、[メンテナンス] を選び、**ENTER** キーを押す
- (3) **▲** **▼** を押して、[UV ランプ] を選び、**ENTER** キーを押す
- (4) **▲** **▼** を押して、[コウリョウソクテイ] を選び、**ENTER** キーを押す

- (5) **ENTER** キーを押す
- ヘッドワイブを行います。

```
UV コウリョウ ソクテイ  
ワイブ カイシ :ent
```

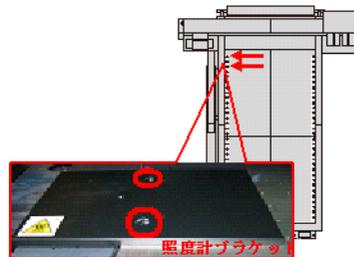
- (6) **ENTER** キーを押す
- キャリッジが左後方部に移動します。

```
UV コウリョウ ソクテイ  
ヘッド イド ウ :ent
```

3

照度計ブラケットを装置に取り付ける

- (1) テーブル後方左側に照度計ブラケットと照度計を置く
 - ・ 吸着板の角に照度計ブラケットの位置決め用切り込みを合わせます。
 - ・ 照度計は照度計ブラケットの前方におきます。
 - ・ コードが過度にたるまないようにしてください。
- (2) プラスドライバを使い、付属のネジ (バインド M5 × 10 2 本) で、照度計ブラケットをテーブルに固定する
 - ・ 最後方部の 2 つのガイド穴を使って固定します。



4

照度計のスイッチを操作する

- (1) 照度計のスイッチを回転し、「H」にする
- (2) 左側のボタンを数回押して、「DH MAX」と表示させる



- (3) **ENTER** キーを押す

```
UV コウリョウ ソクテイ
ジ グ ラ セット          :ent
```

5

測定する

- (1) **ENTER** キーを押す
- (2) 測定値の確認が終了したら
ENTER キーを押す

```
UV コウリョウ ソクテイ
CH2 ソクテイ カイシ      :ent
```

```
UV コウリョウ ソクテイ
ジ グ ラ カクニン        :ent
```

(3) CH1 も同様に測定する

UV コウリョウ ソクテイ	
CH1 ソクテイ カイシ	:ent

UV コウリョウ ソクテイ	
ジ グ ラ カクニン	:ent

UV コウリョウ ソクテイ	
シュウリョウ	:ent

(4) **ENTER** キーを押す

- ・照度確認中の照度計ブラケットは、UV ランプの熱で熱くなっていますので、触らないでください。火傷をする恐れがあります。

6

照度計ブラケットを装置から取りはずす



- ・照度確認直後の照度計ブラケットは、UV ランプの熱で熱くなっており、触ると火傷をする恐れがあります。時間をおいて、照度計ブラケットが充分冷えてから取り外してください。

7

測定値を確認する



- ・測定値の目安は、照度計の内側をご覧ください。

- ・照度測定後、照度計ブラケットは、UV ランプの熱で熱くなっていますので、触らないでください。火傷をする恐れがあります。

測定値の目安

出荷時のランプ照度と、累積照射時間が 500 時間を経過した後の理論値照度は、照度計内側のラベルに記載されています。

- ・累積照射時間 500 時間で、照度は約 30% 低下します。
- ・500 時間経過後でも、急激に照度が落ちることはありません。
- ・累積照射時間が 500 時間以内にもかかわらず、著しく照度が低下している場合は、UV ランプユニットの故障が考えられます。お近くの販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
- ・実際にメディアに作図してインクの硬化状態を確かめる方法もあります。「UV 硬化が弱くなったときのチェック方法」(P.4-44) を参照してください。
- ・照度が低下している場合でも、UV 光量の設定を変更すれば、充分にインクが硬化する場合があります。「UV 光量の変更」(P.4-46) を参照してください。

第5章 困ったときは



この章では ...

故障かな?と思ったときの対処方法や、ディスプレイに表示するエラー番号の解消方法などを説明をしています。

故障?と思う前に.....	5-2
電源が入らない	5-2
作図できない	5-2
ディスプレイにメッセージを表示する	5-2
作図不良が発生したときは	5-3
ノズル詰まりを解消したいとき	5-3
動作中に本装置を停止させたいとき	5-3
メッセージを表示するトラブル	5-4
ワーニングメッセージ	5-4
エラーメッセージ	5-5

故障？と思う前に

故障？と思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

電源が入らない

電源が入らない場合の原因の多くは、電源やコンピュータのケーブル接続ミスによるものです。接続が適正かもう一度確認してください。

電源ケーブルを本装置と電源コンセントに接続しましたか？

イエ

電源ケーブルを確実に接続してください。

作図できない

作図ができない場合は、データが適正に本装置に送られていない場合があります。また、作図機能に不良がある場合や、メディアのセット方法に問題がある場合などが考えられます。

ご使用のインターフェイスクーブルが合っていますか？

イエ

本装置専用のケーブルをご使用ください。

インターフェイスクーブルを確実にセットしていますか？

イエ

インターフェイスクーブルを確実にセットしてください。

ハイ

ディスプレイにインク切れのメッセージを表示していますか？

ハイ

新しいインクカートリッジに交換してください。P.4-4

ディスプレイにメッセージを表示する

ディスプレイに「オンスイジューンビチュウ」と表示された場合、温水装置の水温が一定に達していません。また「UV ジューンビチュウ」と表示された場合は、UV ランプの準備が完了していないため、UV ランプが使用できず、作図することはできません。

一定の温度になるまで作図はできません。

一定の温度になるまで、待機してください。一定温度に達するとディスプレイ表示が消え、作図が可能になります。

作図不良が発生したときは

ここでは、作図品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても改善しない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

現象	対処方法
スジ/カスレが発生する	<ol style="list-style-type: none"> (1) ヘッドクリーニングを行ってください。☞ P.2-10 (2) ワイパやキャップのクリーニングをしてください。☞ P.4-26 (3) ヘッドが通過する部分にゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。
作図中のメディア上に大きなインク滴が落ちる	<ol style="list-style-type: none"> (1) インクキャップのクリーニングをしてください。☞ P.4-26 (2) ヘッドクリーニングを実行してください。☞ P.2-10 (3) メディア表面のホコリを取り除いてご使用ください。 (4) テーブル表面に付着しているホコリをクリーニングしてください。 (5) キャリッジ下面のクリーニングをしてください。☞ P.4-8 (6) ヘッドギャップ値を適正な値にしてください。☞ P.3-7
作図中にメディアが浮き上がり、作図が中断する*1	<ol style="list-style-type: none"> (1) 新しいメディアをセットし直し、作図を開始してください。

*1. 作図中に UV ランプによる熱で、メディアが浮き上がり、印刷が中断される場合があります。

ノズル詰まりを解消したいとき

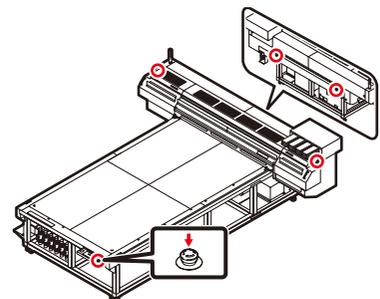
P.2-10 の操作でヘッドのクリーニングをしてもノズル詰まりが解消しない場合は、次の 2 つの項目を確認してください。

- P.4-20 の操作をして、インクの充填をしてください。
- P.4-4 の操作をして、インクの交換をしてください。

動作中に本装置を停止させたいとき

安全上の理由で本装置を緊急停止したいとき、非常停止スイッチを押します。

非常停止スイッチは、装置前面に 1 箇所、背面と Y バーにそれぞれ 2 箇所ずつあります。



メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングメッセージ

メッセージ	原因	対処方法
<ローカル> カートリッジ ナシ :MCYKKYCM	インクカートリッジが装填されていない	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを取り付けてください。
<ローカル> インク ニアエンド* :MCYKKYCM	インクカートリッジのインク残量が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 早めに、表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(P.4-4)
<ローカル> インク エンド* :MCYKKYCM	インクカートリッジのインクがなくなった	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(P.4-4)
<ローカル> インクカートリッジ* :MCYKKYCM	装填したインクカートリッジの異常	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを再挿入してください。それでも表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
<ローカル> インクキゲ* ンギ* レ :MCYKKYCM	インクカートリッジの有効期限が切れている	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(P.4-4)
<ローカル> インク タイプ* :MCYKKYCM	装填したインクカートリッジの種類が異なる	<ul style="list-style-type: none"> 装填したインクカートリッジの種類を確認してください。
<ローカル> インク カラー :MCYKKYCM	装填したインクカートリッジの色が、装着すべき色と異なる	<ul style="list-style-type: none"> 表示している色と、装填したインクカートリッジの色を確認してください。
<ローカル> ヒジ* ユンセイ :MCYKKYCM	ミマキ純正品のインクカートリッジを使用していない	<ul style="list-style-type: none"> ミマキ純正品をお使いください。
<ローカル> インク ICエラー :MCYKKYCM	インクカートリッジの ICチップを正常に読めなかった	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを再挿入してください。それでも表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

エラーメッセージ

エラーメッセージを表示する場合は、下の表に従って、エラーを取り除いてください。
それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

メッセージ	原因	対処方法
ERROR108 HD CONNECT :12345678	ヘッドの接続が確認できなかった	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR108 HD THERMIS :12345678	ヘッドの温度が読み取れなかった	
ERROR128 HDC FIFO OVER	<ul style="list-style-type: none"> データ転送が速すぎる 制御基板に異常が発生した 	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR128 HDC FIFO UNDER	<ul style="list-style-type: none"> データ転送が遅すぎる 制御基板に異常が発生した 	
ERROR129 バッテリー コウカン	電池切れを検出した	<ul style="list-style-type: none"> 販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR12A HDC SPEED	インクの吐出が間に合わない	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR12E P-HEAD INIT	ヘッドの設定に失敗した	
ERROR12E HEAD TIMING		
ERROR132 CHECK:SDRAM	制御基板に異常が発生した	<ul style="list-style-type: none"> インターフェースケーブルを確実に接続してください。 規格に適合したインターフェースケーブルをお使いください。
ERROR201 コマンド エラー	コマンドデータ以外のデータを受信した	
ERROR202 パラメータ エラー	数値範囲以外のパラメータを受信した	<ul style="list-style-type: none"> ホストコンピュータの出力設定値を確認してください。
ERROR304 USB INIT ERR	USB デバイスの初期化に失敗した	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR305 USB TIME OUT	USB デバイスにタイムアウトエラーが発生した	

メッセージ	原因	対処方法
ERROR401 モーターアラーム X	X モーターに過大な負荷がかかった	<ul style="list-style-type: none"> 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR402 モーターアラーム Y	Y モーターに過大な負荷がかかった	
ERROR403 X オーバークレント	X モーターの過電流エラーを検出した	
ERROR404 Y オーバークレント	Y モーターの過電流エラーを検出した	
ERROR50A Y ゲンテン ケンシュツ	Y 軸の原点検出が行えなかった	
ERROR50E HEAD TEMP :12345678	ヘッド温度異常	
ERROR510 X ゲンテン ケンシュツ	X 軸の原点検出が行えなかった	
ERROR511 Z ゲンテン ケンシュツ	Z 軸の原点検出が行えなかった	
ERROR511 Z ワーク ケンシュツ	Z 軸の上端検出が行えなかった	
ERROR601 インク ニアエント* :MCYKKCMY	インクカートリッジのインクが少なくなった	
ERROR602 インク エント* :MCYKKCMY	インクカートリッジのインクが無くなった	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを交換してください。(☎ P.4-4)
ERROR603 カートリッジ ナシ	インクカートリッジがセットされていない	<ul style="list-style-type: none"> インクカートリッジを取り付けてください。
ERROR604 !ハイインクタンク FULL	廃インクタンクがいっぱいになった	<ul style="list-style-type: none"> 廃インクタンクを交換してください。(☎ P.4-10)
ERROR605 !ワイバ コウカン シテクダ サイ	ワイピング回数が規定値よりも多くなった	<ul style="list-style-type: none"> 販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR606 カートリッジ イジ ョウ	インクカートリッジの IC チップを正常に読めなかった	<ul style="list-style-type: none"> 表示しているヘッドのインクカートリッジを再挿入してください。それでも表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

メッセージ	原因	対処方法
ERROR607 キャップ セイソウ	キャッピングの清掃時期となった	• P.4-26 を参照して、キャップの清掃をしてください。
ERROR608 インクカートリッジ :MCYKYYCM	カートリッジエラーが発生した	• ローカルモードで表示しているインクカートリッジのエラー対応を行ってください。
ERROR60B ワイパ タンク フル	ワイパタンクがいっぱいになった	• P.4-10 を参照して、タンクに溜まった廃インクを廃棄してください。
ERROR705 ミズ フソク	温水タンクの水量が不足している	• 水量を確認し、交換してください。(☞ P.4-30)
ERROR705 オンスイ タンク オント*	温水タンクの温度異常	• 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 • 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR705 オンスイ タンク ケイロ	温水ポンプ タイムアウト	
ERROR705 オンスイ ヘッド* オント*	ヘッドの温度異常	
ERROR706 UV1 オーバ ーヒート	本体右側の UV ランプのオーバーヒート	• UV ランプフィルタの清掃をしてください。(☞ P.4-37)
ERROR706 UV2 オーバ ーヒート	本体左側の UV ランプのオーバーヒート	
ERROR706 UV1 インターロック	本体右側の UV ランプのインターロックが発生	• 一度、電源をオフにして、しばらくたってから電源をオンにしてください。 • 再度、表示する場合は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。
ERROR706 UV2 インターロック	本体左側の UV ランプのインターロックが発生	
ERROR901 オペレーション エラー	不当なオペレーションをした	• 正しいオペレーションをしてください。
ERROR901 ヘッド センタク ナシ	ヘッドが選択されていない	• クリーニングまたは充填をするヘッドを選択してください。
ERROR901 インク タイプ	装着したインクカートリッジの種類が異なる	• 装着したインクカートリッジの種類を確認してください。
ERROR901 インク ザンリョウ	インクカートリッジのインク残量が不足している	• 新しいインクカートリッジと交換してください。(☞ P.4-4)
ERROR901 ミジ ユウテン アリ	充填されていないインクがある	• インクを充填してください。(☞ P.4-20)

メッセージ	原因	対処方法
ERROR902 ミサクス データ アリ	受信済みの未作図データがあるのに、設定変更をしようとしている	<ul style="list-style-type: none"> 設定変更は、受信済みデータをすべて作図(☞ P.2-12)するか、データクリア(☞ P.3-9)をしてから行ってください。
ERROR906 ミジ ユウテン	インク未充填	<ul style="list-style-type: none"> インクを充填してください。(☞ P.4-20)
!メディア タカイ	プリントヘッドとメディアが衝突する可能性を検出した	<ul style="list-style-type: none"> 障害物を取り除いてから、ENTER キーを押します。 ヘッドの高さを再設定してください。
メディア ジ ャム	メディア詰まりが発生した	<ul style="list-style-type: none"> UP キーで Y バーを上昇させて、メディア詰まりの状態を解除してください。

第6章 付録



この章では ...

本装置の仕様一覧表や、機能の一覧表を記載しています。

仕様	6-2
本体仕様	6-2
インク仕様	6-3
警告ラベルについて	6-4
お問い合わせシート	6-6
機能フローチャート	6-7

本体仕様

項目		JF-1631	JF-1610
作図ヘッド部	方式	オンデマンドピエゾヘッド	
	仕様	8ヘッド	
作図分解能		300 x 300 dpi、600 x 600 dpi、1200 x 1200 dpi	
作図モード	600 x 600 dpi	4 pass (標準) / 8 pass 単方向 / 双方向 (高速)	
	1200 x 1200 dpi	4 pass 単方向 / 双方向 (標準) / 8 pass / 16 pass 単方向 / 双方向 (高速)	
使用可能インク		専用 UV 硬化インク (弊社純正インク) Bk、C、M、Y、Lc、Lm、6色+W白+CLクリアコート 合計8色	
インク供給		インクカートリッジからのチューブ供給 インク残量表示機能あり インクエンド検出機能あり	
インク容量		440 cc (各色1本)	
使用可能メディア	サイズ	1694 x 3194 mm	1694 x 1080 mm
	厚さ	50mm 以下	
最大作図範囲		幅 1602 x 長さ 3100 mm	幅 1602 x 長さ 1016 mm
距離精度		指定距離の ± 5%	
直角度		± 0.5 mm/500mm	
ヘッドギャップ調整		電動によりヘッドギャップ調整可能。	
メディア吸着		ブロワバキュームによる吸着固定	
UV装置		UV照射装置内蔵、UV電源	
廃インクタンク		ボトル式 (2000 cc / タンクフルセンサ付き)	
インターフェイス		USB2.0 準拠	
コマンド		MRL-II B <ESC/P レベル 2 ベース ミマキオリジナルコマンド>	
騒音	待機時	55 dB 以下 (FAST-A, 前後左右 1 m)	
	動作連続音	65 dB 以下	
	動作不連続音	75 dB 以下	
安全規格		VCCI-クラス A、UL、CE マーク、CB レポート	
インク安全性		MSDS	
電源仕様		単相 AC200 / 230 V	
消費電力		6.0 kVA 以下	
設置環境	使用可能温度	15 ~ 30 °C	
	相対湿度	35 ~ 65 %Rh (結露なきこと)	
	精度保証温度	18 ~ 25 °C	
	温度勾配	± 10 °C / h 以下	
	粉塵	オフィス相当	
重量		約 1150 kg	約 1050 kg
外形寸法		3430 (W) x 4250 (D) x 1465 (H) mm (最大)	3430 (W) x 2005 (D) x 1465 (H) mm (最大)

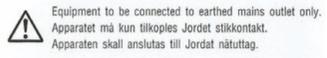
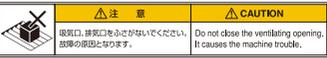
インク仕様

詳細は、販売店または弊社営業所にお問い合わせください。

項目		品番・仕様
形態		専用 UV インクカートリッジ
インク種類		ブラック、マゼンタ、シアン、イエロー、ライトシアン、ライトマゼンタ、ホワイト、クリアコート
インク容量		440CC
有効期間		製造日より 1 年間
保存温度	保存時	15 °C ~ 35 °C
	輸送時	0 °C ~ 60 °C 2 週間以内



- インクは、-4 °C 以下の環境で長時間放置すると凍結します。万一、凍結した場合は、室温（25 °C）で 3 時間以上かけて解凍してから使用してください。
- インクカートリッジを分解したり、インクを詰め替えないでください。故障の原因になります。

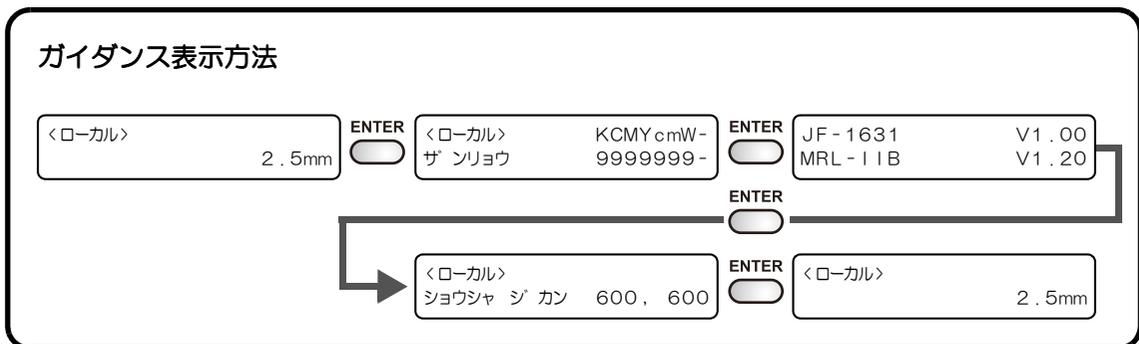
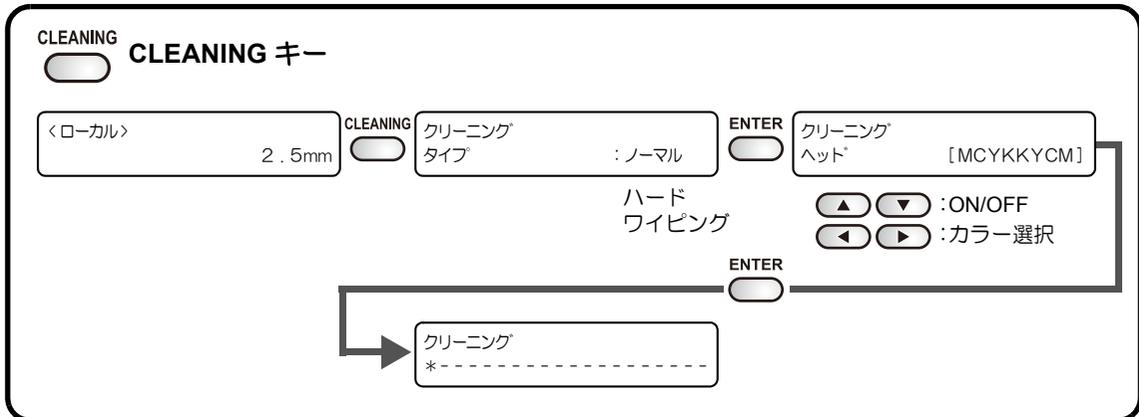
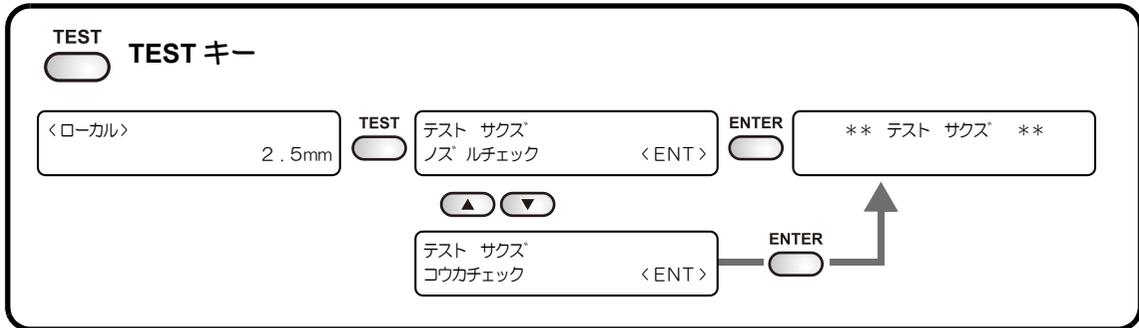
No.	注文番号	ラベル	No.	注文番号	ラベル
1	M903330		2	M903763	
3	M903747		4	M904131	
5	M904148		6	M903764	
7	LHCM-02		8	PEC-02	
9	M904130	<p>This product complies with 21 CFR chapter I and subchapter J.</p>	10	M902396	
11	M903239		12	M905491	
13	M905490		14	M901549	
15	M905122		16	M905265	
17	M903946		18		

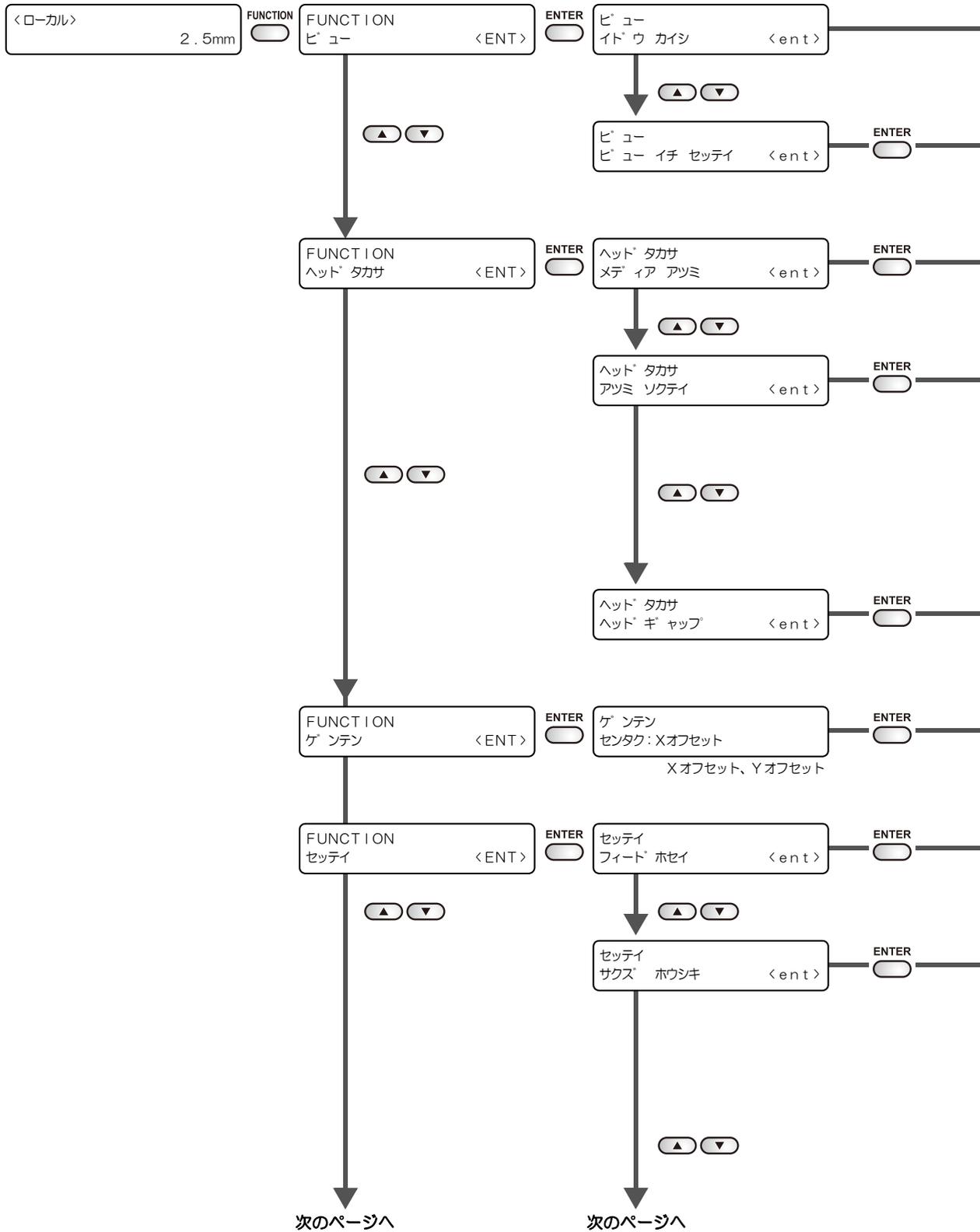
お問い合わせシート

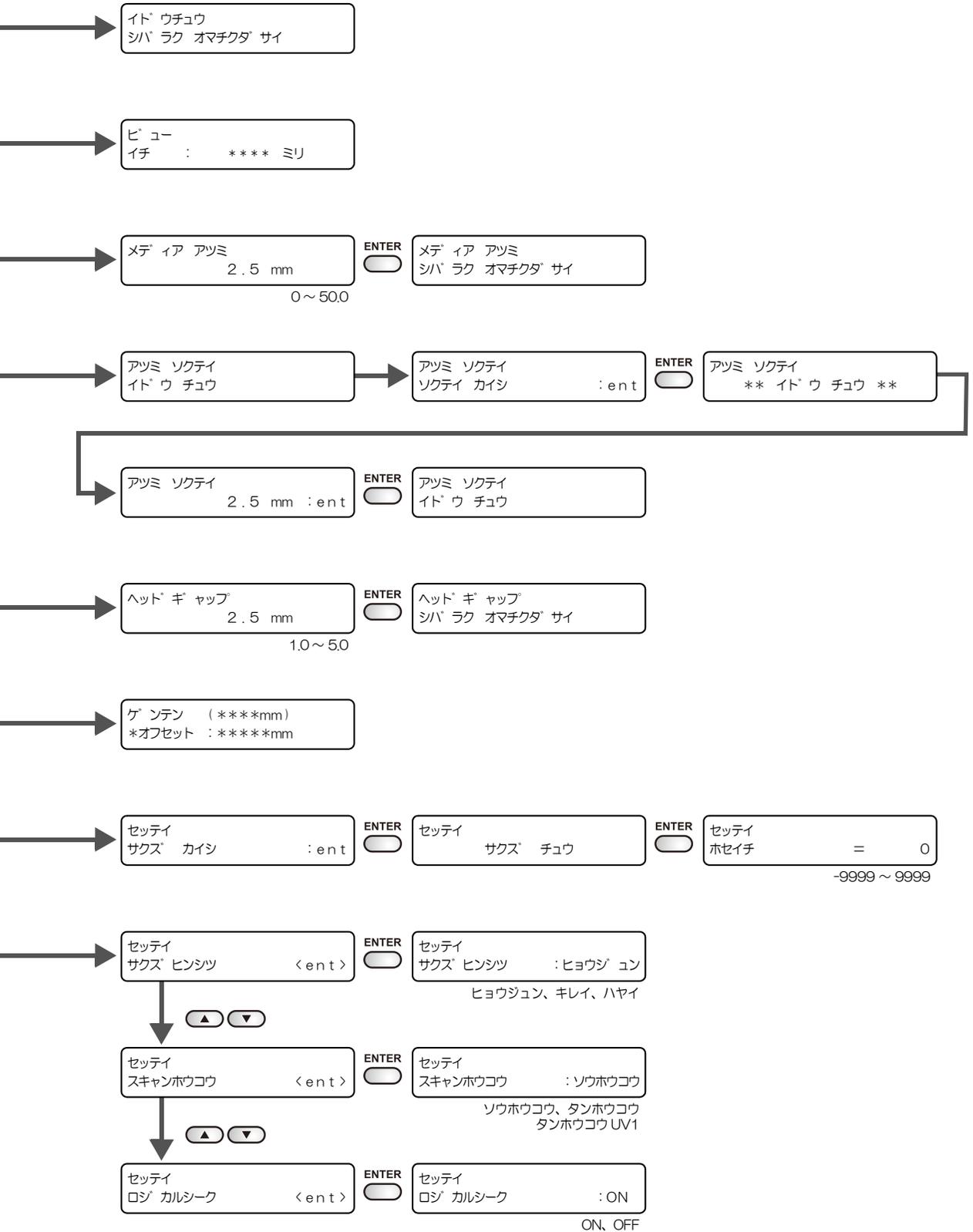
プリンターの故障、異常動作については、このシートをお使いください。
下記の必要事項をご記入の上、巻末の弊社営業所まで FAX でお送りください。

御社名	
ご担当者名	
お電話番号	
プリンター機種名	
お使いの OS	
マシン情報	
エラーメッセージ	
お問い合わせ内容	

機能フローチャート





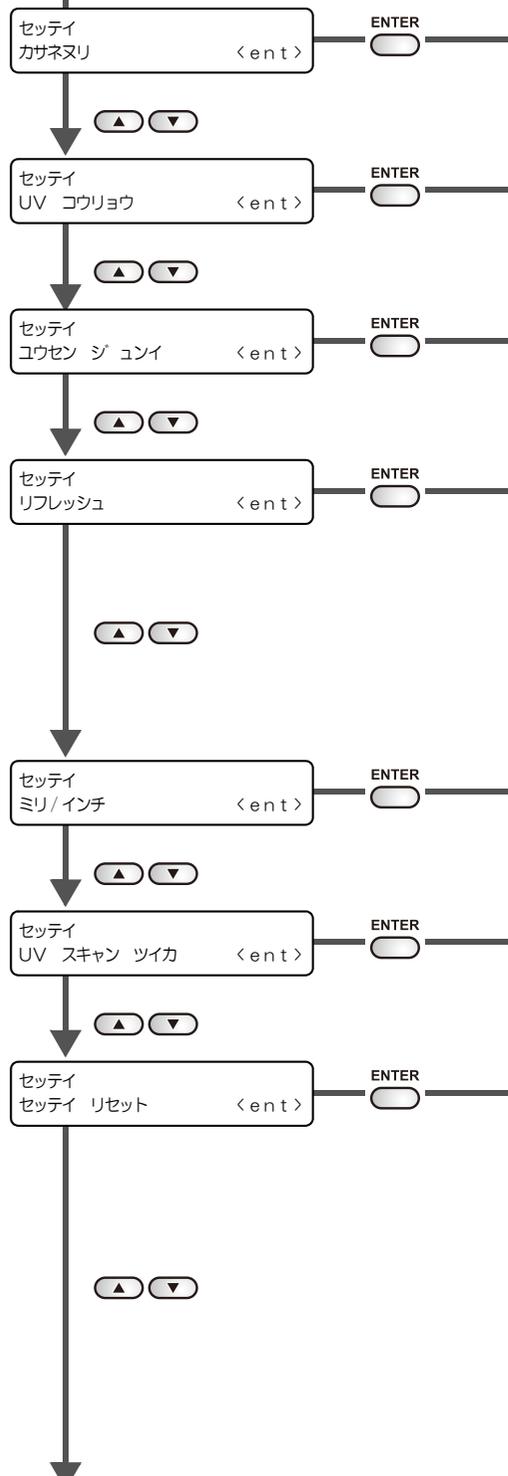


前のページから

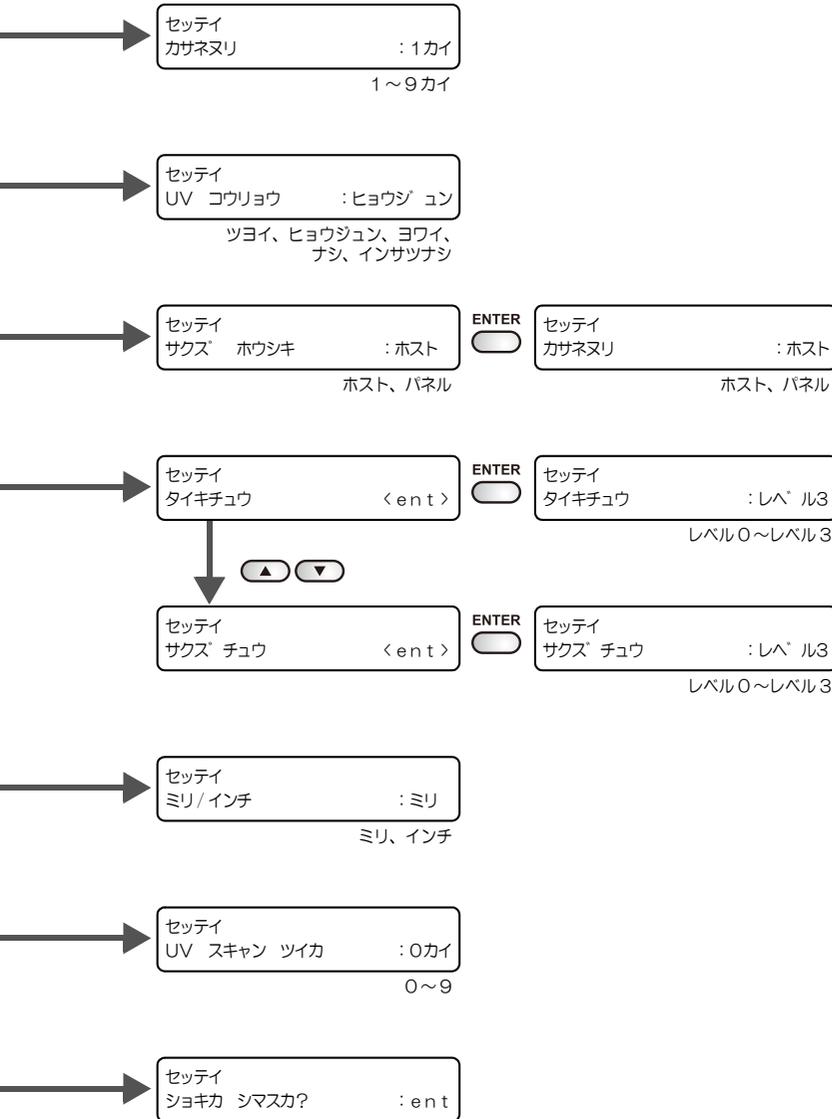


次のページへ

前のページから



次のページへ



前のページから

FUNCTION
メンテナンス <ENT>



次のページへ

前のページから



メンテナンス
ステーション メンテ <ent>



メンテナンス
テイキ ワイピング <ent>



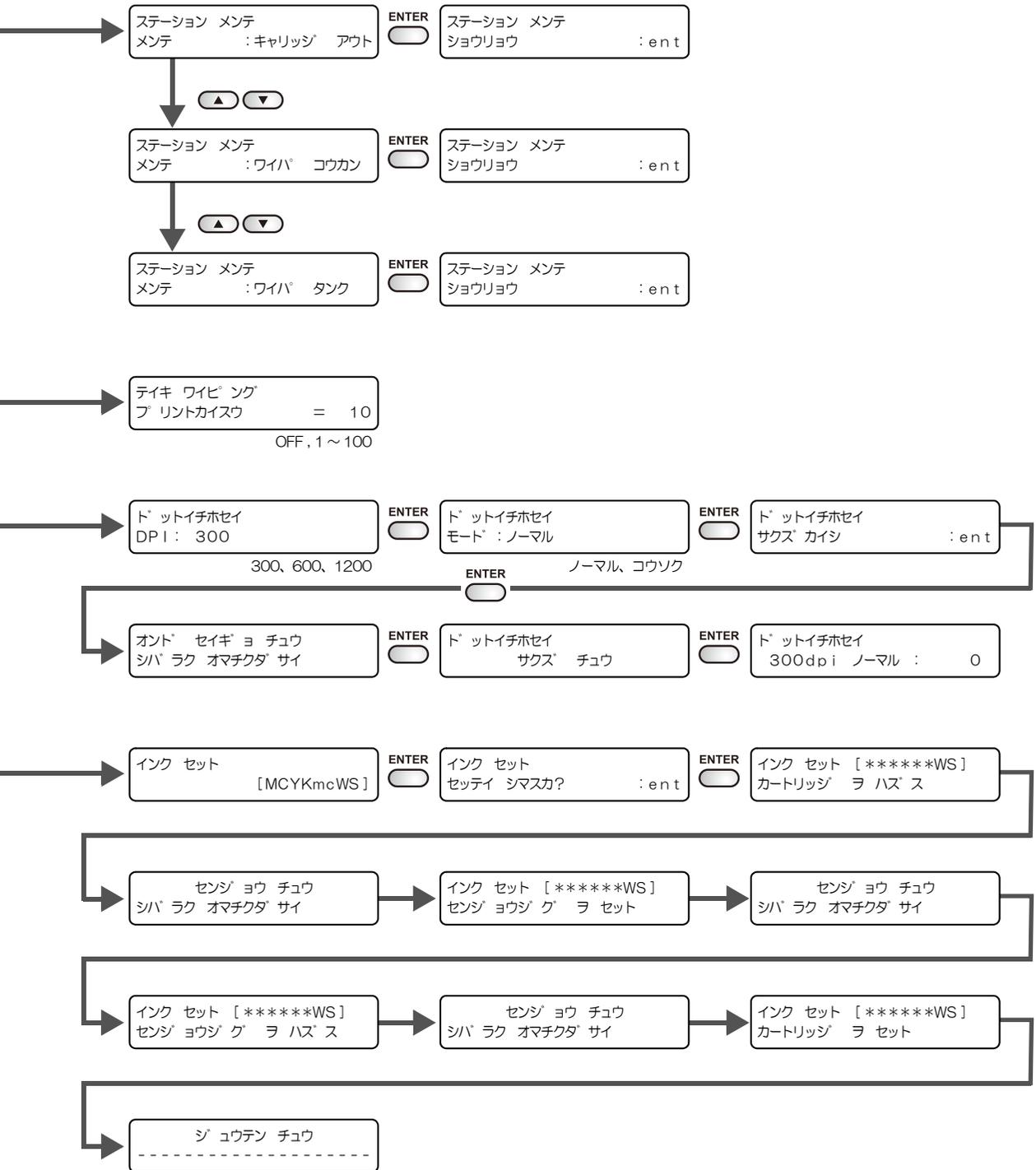
メンテナンス
ドットイチホセイ <ent>



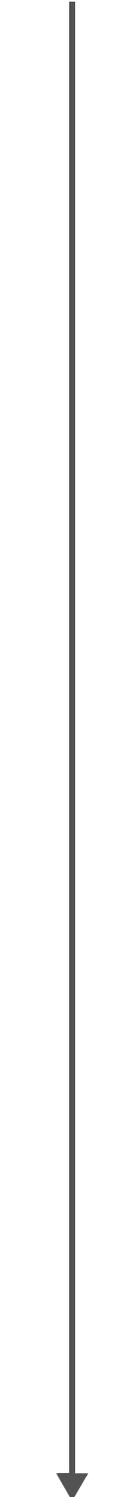
メンテナンス
インク セット <ent>



次のページへ



前のページから



次のページへ

前のページから

メンテナンス
インクシ ユウテン <ent>

ENTER



メンテナンス
ホワイト メンテナンス <ent>

ENTER



メンテナンス
ハット* メンテナンス <ent>

ENTER



メンテナンス
トクシヨクリフレッシュ <ent>

ENTER



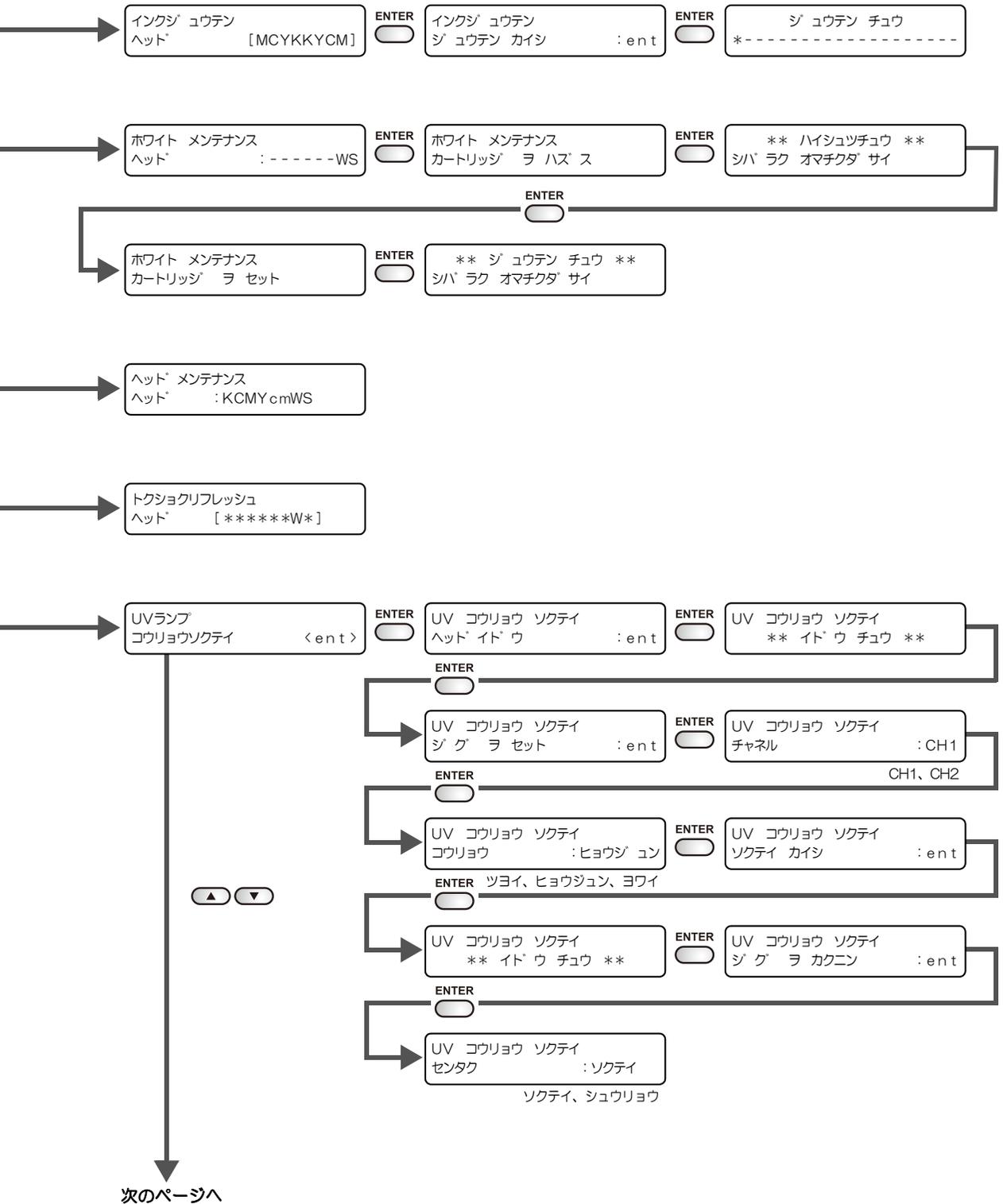
メンテナンス
UVランプ <ent>

ENTER



↓

次のページへ



前のページから



次のページへ

前のページから

メンテナンス
オンスイ コウカン <ent>

ENTER



メンテナンス
リスト <ent>

ENTER



メンテナンス
マシン ジョウボウ <ent>

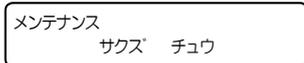
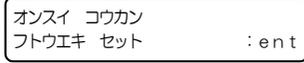
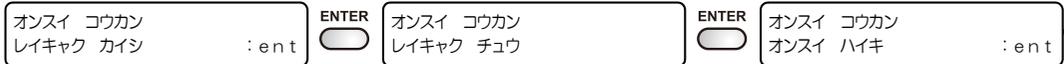
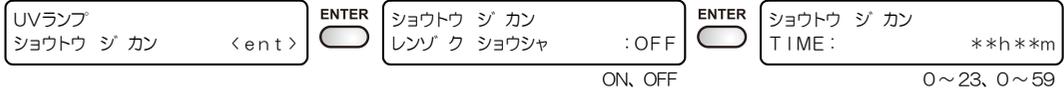
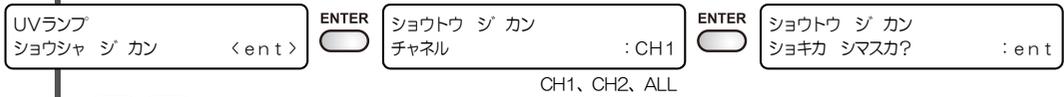
ENTER



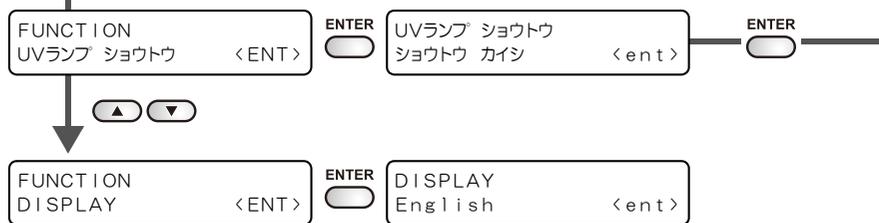
メンテナンス
タイキキャップ ソウ <ent>

ENTER

前のページから



前のページから





UVランプ ショウトウ
ショウトウ カンリョウ

索引

U

USB2.0	1-8
UV 硬化	4-44
UV 光量の変更	4-46
UV 照射器具	1-9
UV 照度の確認方法	4-47
UV スキャン ツイカ	3-19
UV ランプの光量を設定する	3-12
UV ランプの照射時間を確認する	4-40
UV ランプの照射時間をリセット する	4-43
UV ランプの消灯時間	4-36
UV ランプフィルタを清掃する	4-37
UV ランプを交換する	4-40
UV ランプを消灯する	3-8

あ

新しいインクカートリッジに交換する	4-4
安全にお使いいただくために	viii

い

インクカートリッジ	1-10
インクカートリッジ取り扱い上の ご注意	1-11
インク仕様	6-3
インクセットを変更する	4-17
インク滴のボタ落ち	4-8
インクの充填	4-20

え

エラーメッセージ	5-5
----------------	-----

お

お手入れ	4-2
お手入れ上のご注意	4-2
お問い合わせシート	6-6
温水装置	4-29

か

カートリッジ異常	4-5
ガイド穴	3-21
開閉扉の使いかた	2-2
各部の名称とはたらきについて	1-3
キャッピングステーション	1-6
キャリッジ	1-6
ジョグキーのはたらき	1-4
操作パネル	1-4, 1-5
装置前面	1-3
装置背面	1-3
フラッシング BOX	1-6
カサネヌリ	3-19

き

機能フローチャート	6-7
-----------------	-----

け

警告ラベル	6-4
ケーブルを接続する	1-8
言語表示	3-16
原点を変更する	3-2

こ

故障?と思う前に	5-2
ご注意	v

さ

作業の流れ	2-3
作図	2-12
サクズヒンシツ	3-11
作図不良が発生したとき	5-3
作図方式	3-10
作図を開始する	2-12
作図を中止する	2-13

し

自動的にノズル面の清掃をする	4-14
受信障害	v
使用可能メディアサイズ	1-12

情報を表示する	3-9
初期状態に戻す	3-20
白インク	1-11
白インクの定期メンテナンス	4-22

す

スキャンホウコウ	3-11
----------------	------

せ

設置する	1-2
設置場所について	1-2
設定リスト	3-17

そ

その他の便利な設定	3-19
-----------------	------

ち

長期間使用しない場合	2-16, 4-2
------------------	-----------

て

データクリア	3-9
テーブル、外装のお手入れ	4-3
テスト作図	2-9
電源ケーブル	1-8
電源を入れる	2-4
電源を切る	2-16
電波障害自主規制	v

と

特色リフレッシュ	4-25
----------------	------

は

廃インクタンク	4-10
排気プロワを交換する	4-34

ひ

非常停止スイッチ	1-7
表示灯の働き	1-9

ふ

ファンクションモード	1-13
不凍液混合水の交換方法	4-30
不凍液の取り扱い	4-29
フラッシングBOXのクリーニング	4-6

へ

ヘッドギャップ	3-6
ヘッドクリーニング	2-10

ほ

本書の読み方	xvi
本体仕様	6-2

ま

マシン情報	3-18
-------------	------

み

ミリ/インチ	3-19
--------------	------

め

メディア取り扱い上の注意	1-12
メディアをセットする	2-5
メディアをまっすぐにセットする	3-21
メニューモード	1-13

ゆ

優先順位	3-14
------------	------

り

リフレッシュ	3-19
リモートモード	1-13

れ

冷却ファンフィルタを交換する	4-12
----------------------	------

ろ

ローカルモード	1-13
ロールシート	2-8
ロジカルシーク	3-11

わ

ワーニングメッセージ	5-4
ワイパとキャップのクリーニング	4-26

JF-1631/1610 取扱説明書

2009年7月

発行者 株式会社ミマキエンジニアリング
発行所 株式会社ミマキエンジニアリング
〒389-0512
長野県東御市滋野乙 2182-3

